
W.C. **ウォータークロゼット**

モト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

W・C・ウォータークローゼット

【Nコード】

N6286S

【作者名】

モト

【あらすじ】

トイレで起きる不条理な立てこもり事件、理不尽にも巻き込まれた主人公の藤沢郁弥は……。笑いありアクションあり涙ありの青臭……青春シチュエーションコメディもどき。芝居の脚本になります。

携帯表示非対応です!!

オープニングACT 「犯行声明」

ウオータークローゼット

作演 モト

【はじめに】

この作品は戯曲……というよりは脚本であり、整っていない部分も多いのですが、記録として（というかそろそろ時効かな？）と思う。（UPさせていただきます。執筆時期は2004年12月、卒論と並行で書いていた記憶があります。上映は2004年2月28日・3月1日、北池袋某所にて。非常に狭い小屋でした。

学生最後なので青臭い内容をやりたくて書いたもので、非常に、あの……青臭いです（苦笑） 舞台装置諸々手作りですプロの手は入っておりません。

もちろん脚本なので台詞のみで構成されております。よって分り難い所も有りますが（多少注釈も添えますが）基本的にはフィリングで読んでみてください。脳内でお好きな声優さんにも変換していただければ至極詩悦にございます。

あとはこのボリュームで上演目安は90分でございます。会話は基本被せ、マキでテンポよく……（でない面白くもなんともないので）

万が一上演したい！ という方がいらっしゃりましたら一度コメント欄かメッセージ機能にてご連絡ください。上演許可料は交渉次第で無料です。改定も有りですから、お好きにどうぞ。（ただし無

断転載、無断拝借、無断上演、無断パクリは御免こうむります。
(
ではどうぞ。

【舞台設定】

2004年2月、都内某所公園にて。

そこはまぎれもなく、疑いようも無い位公園の男子トイレである。
全体に薄青の壁面、所々黴で緑にくすんでいる。
床面はコンクリートがむき出しで、スポーツ新聞が捨てられていたり
無造作に備品であるトイレトーパーが置かれていたりする。
舞台奥に下手側から窓、個室が二つ+掃除用具入れがあり、
従って小用はツラ側(客席側)にあると言った設定。
当然出ハケは一カ所となる為、下手奥。

公衆トイレの外としてツラにOUPの花道があり
花道は上下にハケ口がある。

【登場人物】

藤澤郁弥

柳千佳

小田嶋トコ

黒田直人

桂木智久

高城拓郎

クリステル

カメラマン（警察官 兼役）

A D

基本的に私の脚本の書き方として男性は苗字、女性の名前で表記している。

下記はメインキャラの簡単なプロフィール。

- ・藤沢（21）は就括生であり内定が取れていない状態である。加えて千佳の店の常連である。
- ・千佳（年齢不詳）は妹喫茶でアルバイトをしており声優志望である。
- ・トローコ（26）はフリーターであり長期家出中の良家のお嬢である。
- ・黒田（23）は結婚詐欺師であり、トローコと知り合いである。
- ・桂木（24）は交番勤務の巡査であるが警官一族の次男であり、トローコとは許婚である。
- ・高城（27）はアニメーターであり、千佳の兄である。

以上

オープニングアクト

#1 犯行声明

客入れ後暗転とクロスでSE
リポーターの声、喧騒、ヘリコプターの羽音
パトカーのサイレン音が近付いてきてキューブレーキで停まる。

溶明

公衆トイレには立ち入り禁止のテープが貼られており、ものものしい雰囲気。

そのなかで佇むは6名の男女。

ME

黒田 聞け！資本主義にたかる蛆虫共め！
高城 社会の屑とはよく言ったもんだな、
桂木 ゴミ屑、腐ったみかんが、
黒田 貴様らの期待にこたえてやるんだ、
トーコ 聞け！国家権力に飼われた歯牙なき犬共め！
桂木 交番勤務で巡回中に
千佳 酔っ払いに絡まれるよりマシだろう、
トーコ 貴様らの期待にこたえてやるんだ、

高城 聞け！マスメディアに翻弄される哀れな聴衆よ！
黒田 センサーシヨナルかつ大胆に！
千佳 面白おかしく盛り上げてやるうての。
高城 貴様らの期待にこたえてやるんだ、

藤澤、台詞の間、入ろうとするが入れない。入ろうという勢いも無い。

トーコ そうだ私達は、ただ期待にこたえているだけだ、

桂木 こたえているだけなんだ。

黒田 これは純粋なレスポンスだ、

千佳 聞いてる？

高城 その為の声明だ、

桂木 その為の立て籠もりだ、

黒田 馬鹿にするなよ、

高城 チャチにするなよ、

トーコ お涙なんて御免だね。

千佳 身の上話なんて尚更いらない、

高城 近所の人？

黒田 友人の証言？

桂木 面白いように美人美人と付け足して。

千佳 まあ、気分は悪くないけれど。

高城 ゼンゼン美人じゃナイー！

トーコ じゃあ、言うよ。

耳の穴かっぽじってよく聞きな！

これは、最後の悪あがきだ！

効果照明C E、ギターサウンドにのってオープニングアクトとしてダンス。

暗転。

<<< 第二幕に続く

イントロダクション(前書き)

芝居の脚本です。

イントロダクション

#2 「イントロダクション」

溶明。

冬の午後。代々木公園の公衆便所（男子）。
SEトイレを流す音。個室から携帯電話を操作しながらリクルー
トスーツ姿の藤澤、出てくる。

藤澤 着信ナシ、か。

藤澤、ネクタイを外してグシャッとカバンに突っ込む。と同時に
カバンから一枚の紙切れを取り出す。

藤澤 最終面接の御案内、結果は一週間以内に電話で連絡
……………落ちたかな……………。はあ。

藤澤、紙を無造作にカバンに突っ込んで、今度はまた違う紙を取
り出す。

藤澤 結果は17日までに登録されているメールに通知……落ちたかなあ。

紙をカバンに突っ込む。

藤澤 俺は今、流されている、社会や時代や時間の波に流されている……

そうだ、ウンコだよ、俺の今の立場は正にそれだよ。
ああ、水洗便所のレバーをくいと、こう、
捻るって動作はなんて無情な行為だったんだろう。反省した。

次からは流さないで置こう。
いや、三度拜んでから流そう。うん。そうだ。
……
ああ〜だめだ、独り言とか有り得ない、やっぱり俺ウンコだ、

ああ〜もう、あはは、シニタイ、シニタイ

そこに電話。(着信音：エアーマンが倒せない)

藤澤 うを！おお！（深呼吸）はい、もしもし……かあさん……。

しかし、期待に反して電話の相手は母親。

藤澤 ああ、なんだよ。え？ どうもこうも…何？ ないよ。そ

れだけ？

ああ？ いやまだ。結果今日中だし。え？ 落ちたんじやないの？

はい、ああ、うん。 あの、その話長い？

え？ なんでつて、今……今、今ウンコしてるの。

うん、はい、はい、うん、ああ、分かってるよ！

ちゃんと流すよ！ 馬鹿！

え？ ああ、うん。じゃ。

藤澤、電話を切る。

藤澤 やっぱり、ウンコかな、俺。

ぼやく藤沢が天井を見上げていると、そこに黒田、駆け込んで来て藤澤にぶつかる、続けざまに桂木、飛び込んでくる。桂木は警察官の制服で、片手には銃を握り締めている。

桂木 と、止まれ、止まらないと撃つぞ！（息切れ）

黒田 （すでに藤沢にぶつかって止まっている。）

桂木 止まってる、チャンス！ バーン（発砲）

藤澤 うわ、うわああああ！

黒田 ……。

藤澤 ちよ、え、あ！ 大丈夫ですか、見知らぬ人！

黒田 見知らぬ人？

藤澤 見知らぬ人。

黒田 ああ、たしかにな

藤澤 血が出てない……っは！ 兆弾っ！（しゃがむ）

（間）

桂木 いやあ、日本の警察は、

黒田 一発目空砲だから。

藤澤 え？ え、ええ！ いや、そんなんで二人とも落ち着いているって、

あんた警察官？（桂木を指して）

黒田 ぱつと見そうだな

藤澤 強盗とか？（黒田を指して）

桂木 ぱつと見そうですね。

藤澤 た、ヤバイ。展開が見えない。あのーえーと。

俺、ウンコですから人質の価値とか無いんで帰っていいですか。

（間）

桂木 君、アレ、アブデカとか観過ぎなんじゃないの。ちょっと。

藤澤 ああ、深夜やっているとついついて、ちが……

トーコ その撃鉄はそんなに軽くないでしょ！

藤澤 いきなり！

桂木 トーコさん……！

トーコ、息切れしながら入ってくる。

藤澤 男子、男子、男子。（確認する）

トーコ ど、どうい、うつもり、よ、いくら、空、砲、だから……

つて、

桂木 大丈夫ですよ、こんな音、

ドラマやアニメに毒され尚且つ平和ボケした日本人にと
つちゃあ、

ちよつとした風船が割れる音みたいなものじゃないです
か。

二階の住人の助けを求める悲鳴だつて、

ちよつとしたプレイと思つてやり過ごすくらい

平和ボケした現代人にはね？

(桂木は言いながら銃口をトーコに向ける)

トーコ 桂木君、

桂木 これだつて、ほら、あとでチャンバーを戻せば

トーコ 桂木君！

桂木 ……。

トーコ 仕舞いなさい。

桂木、銃を仕舞う。

桂木 とにかく、こんなところに逃げ込んで、これで逃げ場は無
くなった、

飛んで火にいる鈴虫つて奴ですね。

黒田 ……夏の虫

桂木 署に連行させていただきます。

黒田 ……。

桂木が近づくと黒田が一定の距離をとりながら桂木と立ち位置を
入れ替える。(桂木が出口から遠ざかり、逆に黒田が出口側に来る。

（逃げられると桂木慌て、

桂木　と、トーコさん、取り押さえて、

トーコ、黒田を羽交い絞めにする。黒田、されるがままに羽交い絞めされて、そのままぐるりと向きを変えてトーコに抱きつく。

黒田　馬鹿馬鹿しいからもう行こうぜ？

黒田に肩を抱かれる格好のトーコ。二人は出口へ。

桂木　と、トーコさんに近づくな！

桂木、突っかかってくるのを黒田、軽くないし、元位置へ。

桂木　み、認めない、僕は認めませんよ！トーコさんがお前みたいな奴と、

け、け、結婚するだなんて！

藤澤　そんな理由？！

トーコ　ちよつとまって、それは

桂木　そんなって、これは決して軽くないんですよ！

奴が犯罪者であるコトに変わりはないし

トーコ　桂木君！聞いて！落ち着いて

桂木 トーコさん、いえ、いいんです、いいんですよ。

僕は全て分っています。あなたの純真無垢な善意を食い物にして

奴はあなたに取り入ったんです。

でも、あなたはお優しいからまだそれでもあんな屑を信じている、

ああ、なんて、なんて素敵な人なんだー！

桂木が喚いている後ろ側で黒田と藤沢会話している。

藤澤 単なる私情のもつれ？

黒田 脳に蛆が何か湧いてるんだろ。

藤澤 正に危ないデカですね。気持ち悪い人だな。

トーコ 桂木くん……。

桂木 トーコさん！

トーコ ウザイ。

桂木 !!!

トーコ とにかく、もうやめてよね、恥かしいっいたらありやしない。

桂木君、あなただって巡回の途中でしょ。

桂木 はあ……で、でも犯罪者です！

トーコ 令状があるわけ？

桂木 じゃ、ないですけど

トーコ それとも現行犯？

桂木 でも、でも奴はこの界限じゃ結構それなりに有名なアング

ラの

トーコ 桂木君！

桂木、何かを考え込むそぶり。そうして突然無線機に手をやると、

桂木　こちら、桂木巡查。至急応援要請。場所は代々木公園内公衆トイレ。

不審者一名応援お願いします。

黒田　てめえ、

トーコ　ちよつとなんてこと！

桂木　理由はなんだってでつち上げればいい。

署につれて帰ったらいくらだって吐かせられますよ！

交番からここまで5分とかからないでしょうね。どうします？

すぐに応援がきちやいますよ？　カツ丼食べます？

トーコ　桂木君！

桂木　トーコさん、あなただって知っているんでしょ、それなのに……

トーコ　桂木君お願い、もうやめてよ！

桂木　やめませんよ！　なんとしたって、

僕はあなたをご実家に連れて帰らなければなりません、

それは、あなたの気持ちを思うと、心苦しいし、僕だつて……

けれど、桂木家の人間として、

コレは僕に課せられた指名であるし、自由を奪う枷でもあります。

それでも、僕はそうしなければ……。

黒田、隙を見て逃げようと出口に近付く。藤澤も、桂木が気持ち

悪いので、黒田の方へ。

桂木 黒田さん、逃げるんですか？

黒田 ……。

桂木 ほら。やっぱりやましいことがあるから。

トーコ、桂木の方に歩み寄り、ひっぱたく。

トーコ いいかげんにして。あなた、それでも名家桂木家の御曹司？

桂木 ……。

黒田 トーコ。

トーコ うん、早く行って。私がなんとかするから。しゅ、ごめんね。本当に。

黒田 まあ、ごういづのは慣れてる方だと自負してるし。

トーコ ……あ。いや、あなたも、

なんだか変なゴタゴタに巻き込んだじゃってごめんね？

(藤沢に対して)

藤澤 あ、いや。超展開過ぎてついていけないので気にしないでください。

トーコ このことは、秘密に……

藤澤 あっはは。何度も言うように超展開過ぎてよくわかってないですから！

桂木 ……ごくな。

黒田 あ？

桂木 動くなー！

桂木、再び銃を構える。

藤澤 わあ、ただ、もうその手には乗りませんよ。しかし銃構えるのが早いな。

この人本当、アメリカナイズ。

黒田 つは。また空砲で脅しか？脅しのつもりか？

桂木 さっき初弾を空砲で撃ったから あれからまだ元に戻していない。

今度は、実弾ですよ。（言いながら激鉄を起こす）

藤澤 ！

トーコ ！

黒田 そんな度胸があるのか、あんたに。

それ一発であんたの首はきれーに切られるぞ？

桂木 これくらいしか、これくらいしか僕には出来ないんですよ。あんたはいい、いいじゃないですか！ 自由で、気ままで、それで、

トーコさんに優しくしてもらえて。ああ、知ったことが、
どうにでも、

どうにでもなるさ！ 僕は名家の生まれだからな。思い出したよ。

そう、これでも警察の世界じゃあ名家の御曹司なんだ。

どうにでもなるだろう？

どうにもならなかったら、その時は、それはそれで、い

いぞ。

黒田 ……。

藤澤 ……。

桂木 トーコさん。これでもまだ、戻りませんか？

トーコ ……。

黒田、ポケットからナイフを取り出し、藤澤を人質に取るうとする。だが、身長差ゆえなかなか巧くいかない。桂木、黙りこむトーコに痺れを切らし、

桂木 考え直してください。こんな男のために、あなたはあの家を飛び出したんですか。

銃を振り廻しながら駄々っ子のようにトーコに迫る桂木、銃口があっちゃんこっちゃん向けられて他の三人はパニックに。

トーコ そうじゃないわよ！ けれど！

桂木 自重してください。

トーコ あんたがね？！

桂木 何故。

トーコ (桂木を二度ぶんぐる、そして一息つき)

生まれとかそんなんそんなんで、

なんで決め付けられなきゃならないの！

桂木君にだって分るでしょ。

だつたら私の気持ちを汲んでくれたっていいじゃない。

桂木 それならば、トーコさんだって

僕の気持ちを考えてくれたことがあるんですか。

トーコ 黒田君は……そうね、私の気持ちは分ってくれているわ。

黒田 ……。

桂木 僕だって

トーコ 自由にさせてよ！ もう私は小田嶋なのよ、

寛和木のおじい様とは、関係ない！

藤澤 寛かんなき和木？

どたばたしているところに、柳千佳、登場。トーコに詰め寄る桂木、二人を突き飛ばして

千佳 ……………。

千佳、居る人たちをちらっと一瞥し、手前の個室を覗く。
男三人、壁の色、キャパ側（小用便器）、入り口を確認し、

男三人 男子、男子、男子！

千佳 おつかしいなあ？

藤澤 おかしい。

桂木 おかしいよ！そりゃああんた

千佳 え？あ、はい？

二人 ……。

千佳 ああ、私にはお気遣い無く、あの。どうぞ。

トーコ 女の子は、隣じゃない？

千佳 え？ああ、それはおばさ……

トーコ おば？

千佳 あなたも同じでは？

トーコ ……？！

千佳 だから私のことは気にしないでっってっってんじやないっすか。ウザ。

トーコ ああ（　　）っ！（怒）

隙を突いて、黒田、千佳を人質に取ろうとする。千佳と目が合い、女の子なので一瞬と

惑うが、ご、ごめんね、と一言呟き千佳にナイフを突きつけて人質に取る。

千佳 ????

黒田 撃てるもんなら撃ってみろよ。

 さあ、さあ、さあさあさあ！

桂木 き、貴様！民間人を巻き添えだどっ

黒田 あんたなんぞに付き合ってられるか！

藤澤 ああ！

トーコ 何

藤澤 カフェ・ステラの千佳さん、ですよね？

千佳 ああ、うん。まあ、見ればわかる。で？

黒田 お、おいおい、関係ないだろ、今そんな場合じゃ

藤澤 ええ、ちよつと、覚えててくれてないかあ、

 藤澤ですよ、藤澤！ 藤沢お兄ちゃん。俺、常連じゃな

いですか！

桂木 藤澤さん？っていうんですね、危ないですから下って！

千佳 ……。

藤澤 あれ？ああ、俺なんかじゃマダマダって感じかも。

千佳、溜め息をつき少し考える仕草。その後、態度が急変する。

千佳 キヤー、私、何故ナイフとか突きつけられちゃっているの
お？

 もしかして、これって、ヒ・ト・ジ・チって奴ですか、
そうなんですかあ、お巡りさん、

じゃあもしかしてこっちのちよつとカツコイイ人って
まさか指名手配の連合赤軍？ って何歳〜っ！

桂木 そのようなものです。危険思想犯です。

黒田 俺、何歳なんだ。

トーコ 23。

千佳 どうしよう！。千佳、大ピンチ！

千佳、黒田の手を取り自らナイフを突きつけられるようになる。

桂木 その通りです！（同時）

藤澤 その通りです！（同時）

黒田 いや、俺はココから逃げただけで

桂木 さ、トーコさん、離れて！

トーコ 触らないで、もういい加減にして、やめてー！

このあたりから、桂木の要請で駆けつけた応援の警察官、見てい
る。

千佳、相変わらずノリノリ。

千佳 助けてー！ 殺されちゃうー！

黒田 て、てめえら、俺の話を聞け！！！！

藤澤 この、極悪非道の凶悪犯め！

立て籠もるなら人質には俺がなる！
その子は開放しろ！

桂木 あ。

桂木、応援の警察官に気付く。

警官 た、立て籠もり？ 凶悪犯……

1、2、3、4、5（人数を数え）

た、大変だあ！！！！

全員 大変だあ！

警官、去る。立て籠もり事件発生の旨の無線連絡。

手に手に武器（モップとかスッポンとか）を持つ中の人。

桂木、無線で応援要請しようとして黒田に無線機を捨てられる。

民間人を遠ざける声、パトカーのサイレン、走馬灯のように駆け巡る。照明変化。

16時、事件発生。ダンス。

<<<三幕に続く

マス・コミュニケーション

#3 「マス・コミュニケーション」

トイレの中の人々、ダンスが終わるとそれぞれが様子を伺ったり不安そうにしたり、携帯で連絡を取ってみたりしている。

照明、花道へ。

そこにはだらだらとしているニュース番組のスタッフがいる。

一人はスーツの上からダウンジャケットを肩に掛けた女性、マイクを手にして面倒くさそうに不貞腐れている。

一人はラフな格好の男性、カメラを肩に担いでおりきよるきよるとあたりを物珍しそうに眺めている。

一人はAD、ひたすらカメラのコードを巻いたり解いたり巻いたり解いたりしている。

偽川 もーなんで、偽川クリステルともあるうこの私が現場中継なのよお

カメラ いやあ、仕方ないじゃないですか。

たまたまた木でランチしてたのが運のつきですね。

偽川 あーあ。ねえ、聞いた？立て籠もりだって？いやだわ。物騒。

カメラ トイレですがね。

偽川 最近物騒な事件が多くて怖いわよ。

カメラ いいじゃないですか。僕等物騒なことでご飯頂いてるわけ

ですから。

もしこの世から物騒なことが無くなったら、

それこそニュースなんて毎日毎時間動物の赤ちゃん特集になっちゃいますよ。

偽川　そうね。あ、そうよ、今日の「クリステルのそこが気になる」の収録、

どうしよう、え、どうなったか知ってる？

カメラ　ああ、代わりに「山中モナのモヤモヤ気になる」に、代わるそうです。

偽川　……。

カメラ　モナ、とモヤを掛けるんでしょね。

偽川　モナねえ、あたし、山本モナが、キライ。

カメラ　……！！　取った取った？　スクープスクープ、A D、ねえ、録音した？

A D　（頷く）

カメラ　フラーイデー！

A D、カメラ、去ろうとする

偽川　こら、待てい！スクリーンプ！（トイレを指差して）

カメラ　はい、はい！

偽川　ええと、なになに。

代々木公園内の公衆トイレに、4名を人質に取り、男が立て籠もり中？

その中には、警官一名を含む？

何コレ。これじゃあ何で立て籠もってるんだかも分らないじゃない。

カメラ　最初から全部分っちゃったら視聴者だって見る気うせるじ

やないですか。

折角特別放送枠を全局組んだみただし、

偽川 テレ東も？

カメラ いや、テレ東は普段通りアニ

とにかく、小出しにして引つ張ろうってんですから、

クリステルの姐さんの腕の見せ所ってかんじなんじゃな

いですか？

偽川 そうか、そうかあ！現場も悪くないわね、久々に燃えるかも。

カメラ えつと、じゃあ、今コマースヤル挟んで中継繋がりますから、

よろしくお願いしますね。

10秒前、9・8・7・6・(5・4・3・2・1・ハ

イ)

偽川 ハイ、こちら現場の偽川クリステルです。ええ、ええ。

たまたま代々木の近くに居りまして。

はい、そうですね、現場は日も沈みまして、大変冷え込んでまいりました。

公園内はいつもなら弾き語りのミュージシャンや、

犬の散歩をする人たちが賑わっていますが、今は騒然としています。

先ほどから数名の警察官が現場を封鎖するために巡回している様子が

伺えます……はい。そうですね、

ココからだとの様子はよく伺えませんが、

今は静まり返っていて膠着状態の緊張感で空気が張り詰めています。

人質となっているのは男女4名、

そのうち一名は巡回中の警察官ということで、

犯人は拳銃を所持している可能性もあります。

犯人の目的とは一体何なのでしょうか。

犯行声明ははまだ出されていない模様です。

この冬場の寒さの中、人質の方々の安否が気遣われます。
以上、現場から、クリステルがお伝えしました。

偽川、ニュースを読みながら、カメラとADは撮りながら去る。
照明、トイレに戻る。

最後の刺客（死角）

4 「最後の刺客（死角）」

だれかに電話する千佳。

桂木、黒田、トーコは入り口付近で只ならぬ雰囲気。

藤澤、何か話しかけようとして出来ず、千佳の方へ。

声を掛けようとして、拒絶されそのまま一回転。

両者の間を行ったりきたりして所在無さ気。

千佳 え、そうなのー。だからさあ、うん、うん、碧ちゃん代わりに行つてよお。

お願い。うん、え、そうなの？ ニュースで、マジで？

トーコ どうつ？

黒田 囲まれてる。

トーコ どうずんのよ。

黒田 まずったな。とにかく

トーコ あたしはイヤよ。

桂木 いや、トーコさんなら

トーコ おだまり！大体ねえ、桂木君あなたが

黒田 言つても仕方が無い、非生産的だよ

トーコ この状況でなにが生産的とか

藤澤 あのお、僕はここから出たいのですがあ

トーコ ちよ、それは

黒田 あの状況で警察が犯人を特定できたとは思えない、

まあ、出来たところで性別の判別くらいか。

藤澤 え？

黒田 つまり、状況的に考えて、その制服はともかくも、

お前は明らかに容疑者ってわけだ、穩便にすむと思うか？

トーコ そ……そうよ！ そうそう、捕ま^{ジテ}って、事情聴取^{チョーシュ}されて、
そんなでもってにやらにやらよ。

桂木 にやらにやら？

藤澤 マジっすか。

桂木の発言と藤澤、ほぼ同時。

トーコ、桂木の発言直後桂木にスッポンをつきつける、桂木怯える。

トーコの発言にまるで併せたように千佳の電話の会話（声）が飛び込む。

千佳 えー、それはないー。

4人千佳を見るが、千佳、電話で会話中で気づかない。

藤澤 ないって、それはないって。

桂木 そう、冷静に考えたらみんな、あ、いやこの人（黒田）以外は全員

フツーに出て行けば問題ナッシングなわけですからね。

トーコ あたしは？

桂木 いや、でも背に腹は変えられないのでは

藤澤 え、何です？トーコさんもまさか前科もちで？

桂木 いやいやいや、とんでもない、このお方は警……

トーコ、言わせまいとして桂木の顔面にスッポンを押しつける。
叫ぶ桂木。

千佳 マジKY、店長死ねって感じだな。

トーコ マジKY、桂木死ねって感じだな。

桂木 酷い。

黒田 まあ、どっちにしろちょっと厄介なのは事実だろう。

藤澤 どうして。

黒田 藤澤郁弥、文教大学社会学科4年、

スーツって事は大方就職活動中なのか、研修中なのか

藤澤 就活中です。

黒田 いいのか、傷になるぞ、こういう目立った事態に関しては

加害者被害者諸々と。

藤澤 って、どうして知っているんですか！

黒田、いつのまにかスった藤澤の財布を見せる

藤澤 ああ！ いつの間に……ってか、返してください！

黒田 下手すりゃ人生終わるかもな。（藤澤に投げてよこし）

桂木 んんー、でもそんなこと……

千佳 （電話終わって）どうかしましたかあ？

あ、なんかニュースになってるみたいですよ、こーじ。
クリステルも来てるって、見えるかなあw

(千佳、窓を開けようとして)

トーコ やめなさい

千佳 え、なんで？

藤澤 て、テレビ?!

黒田 インタビューだの何だので。

千佳 インタビュー?! キャア、どうしよあ、

そのままプロダクションスカウトされて鮮烈デビューと

か?!

トーコ ないない。

千佳 これって大チャンスのな？

藤澤 的な

黒田 話聞ってるか？

トーコ っていうかさあ、どうしてこうなっちゃったわけ

桂木 僕に迫られても。

藤澤 (千佳に) 熱烈応援しますよ

千佳 (無視して) そのカツコイイお兄さんはどう思いますう？

黒田 俺? だから……

桂木 僕も応援しますよ、じゃあ。

トーコ ねえ。

千佳 警官さんには聞いてないですう

桂木 の!

藤澤 まあまあ、僕なんかスルーですから。

黒田 話題にはなると思っけど、そいつは。

トーコ ねえ、ねえ、ねえってば。

全員が問いかけるトーコを完全スルー。

千佳を中心に盛り上がり、それが面白くないトーコ、

以下ずっと「ねえねえねえねえねえねえ」と言い続ける。

桂木 でもないよな

藤澤 いいじゃないですか、そこに痺れる憧れる

千佳 お名前お聞きしてもいいですかあ？

黒田 黒田です。

千佳 黒田さんっていうんですか 私、千佳っていいます 17

才です

黒田 はは……。

藤澤 ヤベー、超カワイ……。

トーコ ぬおおあああああ！ 聞けええ！！！！

怒りの爆発したトーコ、足を踏みならずとその場に居る全員が飛び上がり

しん……と静まる。

トーコ ちょっと、状況を整理しましょう！ なぜ、こんなことになっちゃったのか。

桂木 だから、僕に迫られても

トーコ そもそも、あんたが騒ぎの元凶とも言えなくは無いでしょ
うが

桂木 そんなこといったって。

ああ、そうだ！ ヤマシイ事が無かったら別に逃げなく
たって

いいわけですから、元凶はこの人ですよ！

黒田 お前さんが応援なんぞ要請せなんだらこんなことには……

千佳 黒田さんは悪くない

トーコ あんたは関係ない

千佳 ヤダヤダ年増が無理しちゃって

藤澤 あっはっは（トーコに睨まれ）へえあ……。

桂木 つて、あなたは知っているか知りませんがねえトーコさんは警……

トーコ ああああ！ そうよそう、なんだっけえ？

一人ヒロインぶって騒ぎ立てた子が原因じゃなあい？

千佳 千佳は永遠の国民的ヒロインです

トーコ うああああ！！！！ 殺したいいいい！！

黒田 落ち着け落ち着け

桂木 千佳さんといえば……君は、どうして、ココに？

千佳 じゃ

黒田 聞けよ。

桂木 あ、いやいや。そういうコトではなくてですね。

藤澤君？ は想像がつくし、

トーコさんとこいつはともかくとしてどうして女の子の

君がココに？

千佳 あ、あれえ？ そういえば、なんででしたっけ？ ねえ？

トーコ 知らないわよ。

藤澤 配達の途中だったんですよ？

千佳 配達はさつき友達にたのんだもん 千佳、偉い

黒田 答えになってない。

千佳 つれないなあ そんなソリストなところがクール

トーコ そういうのニヒリストっていうんですう！

桂木 で、それで！ なんでココに？

千佳 運命じゃないですか

藤澤 デステニー。

トーコ 運命で男子トイレに入るかい！

桂木 何かあったとか？

トーコ あったって何が

桂木 理由が

黒田 男子トイレで理由、ああ、チョコとか？

桂木 犯罪ですからあ！

千佳 チョコは好きですよ

桂木 の！

トーコ ねえ、もうめんどくさいからやめたい。黒田君

黒田 え、イヤだ。

トーコ そこを何とか。

黒田 だが断……

スッポンを向けられて黒田。

少し悩むそぶりを見せるといきなり豹変しそれまでのだらっとした印象から

背筋が伸びて伊達男っぽく

……照明変化、タンゴME、CI

黒田 千佳さん？

千佳 はい！

黒田 ここに、何故来たんです？

千佳 運命です

黒田 千佳さん、運命にも引き金が有るのです。

原因があつて、結果が有るのです。

今日ココで俺たちが出会う運命だったとしたら、

かならず神の思し召しとも思える何か君に

いや、こう言った方が君には分りやすいかな。

エンジェルが舞い降りたはずなんだ、

だから教えてくれないかな、俺たちのエンジェル。

千佳 超カッコイイ

トローコ (黒田の肩を叩いて労い) 流石

千佳 そう、私達のエンジェルは、エンジェルは

!

あーそつだ、思い出した。

千佳、携帯でどこかに電話をかける。すると、個室から音が!

着信音「いちごマシマロ」

千佳、個室を思い切り開ける。

高城、ズボンを下ろした状態で、片手を挙げて降参の意。

片手には携帯電話を握り締めて、恐る恐る通話を切る。

高城 ……。

千佳 ……。

全員 ……。

高城 そつかそつか、お兄ちゃんは千佳の……

マイ、スイート、シュガー、スイート、エンジェル

だったんだね!!!

(アドリブにつき毎回違いました)

千佳 こんのお、馬鹿アニキがあ!

千佳、高城を蹴飛ばす。

後、倒れ掛かる高城の首を絞めて、

もがく高城の指を一本握って個室から引っ張り出す。

高城

いたいいたいいたい、ギブギブギブギブ、指をキメないで、指をキメないで、指、指！！！！！

(奇妙な間、そして黒田をまねて色気を込めて) 指が…

…折れちまう。

千佳

折れるおおお！！！！

SE

生々しい音

高城

折れたー！ 折れたよ、ねえ折れた！

千佳

さあ。説明してもらいましょうか。

藤澤

……。

桂木

いつの間に？

高城

折れたって。

千佳

約束の期限はとっくに過ぎてるのよ！

トーコ

藤澤君一番最初にここに居たよね。

藤澤

僕の後入ってきたのは黒田さんです。

高城

ねえ、折れたよ折れちゃった！

千佳

どう申し開きできるってわけ？！

黒田

つてことは、あれだよな。

トーコ

藤澤君が入る前から、いたってこと？

高城

ああ見て腫れて来た、みて！ 腫れて来た。

千佳　ちゃんと、話を

高城　見て見て見て、ほらほらほら！　あれれ？　指が、デッカク
くなっちゃった！

千佳　聞け！！！！

指にミカンをさして見せる高城にキレた千佳、ミカンを取って、
思い切り高城にぶつける。

高城　……。

千佳　ったく！　逃げ足だけは速いんだから。それで？

高城　ここどこ、ねえ、ここどこ

千佳　ああ！　もう、臭い！　寄るな！　臭い！

雨にぬれた野良犬の匂いがする。

高城　コンニチワ（千佳以外の全員に向かって）

千佳　デビューはいつできるのかしら？　ねえ？　約束じゃない
の、

あたし、いつまで17歳でいればいいわけ？！

他　こんにちは。

高城　あ、すみませんウチの妹がご迷惑をおかけしたようで……

あ、すみません、今何時ですか？

桂木　16時くらいでしょうか。

千佳　人の話を……聞け！！

てめえがそんなんだからこちとら苦労すんじゃないポケえ。

死ね！　ポケ！　カス！　ウンコ！　人間ドリアン！

高城　ああ、打たないで、打たないで。

16時？！　しまったあー！

ね。

あー、僕、あれですね、二時間くらい爆睡してたんです

ね。くっそお。早く原画回収に行かないと間に合わないよ

お。あ。あ。

高城、出ようとしてズボンがずり下がっている事に今更ながら気づき、「あー」と奇声を発しながら履き直して、そして飛び出し、すぐさま戻ってくる。

高城 うわあ、びっくりしたあ（外がただ事ではない感じに）何事？

千佳 馬鹿兄貴。

藤沢 実は赫々云々……

高城 へえ。面白そうな事になってるねえ。

藤沢 それだけ！

高城 何でもいい、なんでもいいんだあ、

仕事を公的にサボれるなら、これ以上の、喜びは、ない！

（個室に戻るうとする）

千佳 戻るな

高城 ええっ？

千佳 驚け！

高城 わあ！ じゃあ。

千佳 何日風呂に入っていないの？

高城 まあ、かれこれ、一週間くらい

トローコ 汚い！

トローコの発言に高城、詰め寄る。

高城 家まで徒歩20分とかからないのに、

この一ヶ月で、家に帰れたのがたったの二日だけですよ。

二日！

机の下で寝て、車の中で寝て、（以下苦労話）

千佳 だからねえ、お兄様、私を声優デビューさせてくれるって話なんだけども

高城 ああ、うん、まあ、そのうちね

千佳 うんwそのうちね！ って、

馬鹿あ、馬鹿馬鹿、ばば馬鹿、この馬鹿兄貴い！

や・く・そ・く忘れてないよねえ？

高城 あゝええとと。

黒田 ちよつと、いいかなあ。

千佳 なんですか 黒田さん、

黒田 とりあえず、高城さんですか。

高城 高城です。あ、本名は柳です。

トーコ 大切なのはそういうことじゃなくて、なんといったらいいのかしら？

今、ここが大変な事になっているっていうのは分かっていただけで

いるんですよ？

高城 はい。ええ。パトカーがいつぱいですからね。

前の通りとかで露出狂が出たとかなんですよね？

で、ここに容疑者が集められていて帰れない、と。

千佳あ、だめじゃないかあ。人前で肌を露出しちゃあ。

千佳 あたし？ あたしで決定？

黒田 驚嘆だ、ある意味ものすごい想像力だ。

桂木 藤沢君はいつたいたいどんな説明を？

藤沢 俺は悪くないっていっただけです。

トーコ ややくしくしないで！ ああ、ええ〜っと、柳さん？

千佳 はい？（同時）

高城 はい？（同時）

トーコ ……（名前が出てこずに手をひらひらさせ）

高城 高城です。

トーコ 高城さん？ まじめになってくださいね。

今私たちはここに閉じ込められて出られないんです。

高城 それは分かってますよ（怒）

桂木 あ、怒った！

千佳 お兄ちゃん、いいから、ここから出ないで。

おとなしく、引っ掻き回さず、ねw

高城 それなんだけど、僕にだって知る権利が（高城の携帯を見て）

うわああ不在着信が40件越えている、ちょっと電話を……

高城、出ようとして黒田とトーコに止められ、仕方が無いのでトイレの個室に引っ込む。

トーコ アレ、何者？

藤沢 お兄さんなの？

千佳 認めたくないですけどねー。

桂木 ご職業は？

千佳 アニメ関係ってところですよ。アニメの制作。

要するに、原画さんと動画さんとを仕事を取り次いだりとか、

そういう仕事ですよ。

藤沢 クリエイティブでいいなあ……。

蛍光灯が付く。

桂木 冬の日には釣る瓶落と違っていいですけど、

本当に日が落ちるのが早いですね

黒田 秋な、意味は分かるけど

桂木 僕なんてあれですよ、最近朝の6時と夜の6時の区別が

付かなくて寝坊して遅刻してすみません！今日夜勤で
した力？

いや昼勤か、よかったよかったって日もありましたよホ

ント。

トーコ 寝すぎ

藤澤、窓を開けようとする。すると後ろから急に桂木にはがい締
めにされる。

桂木 危ない！

藤澤 ？！

桂木 狙撃されたらどうする！

藤澤 いきなり？！

トーコ 皆が皆あんたじゃないからそれはないわよ！

でも、確かにそうねえ、この窓はふさいでおいた方がいい
かも。

藤澤 何故？

トーコ 雰囲気

藤澤 雰囲気？

桂木 念には念を込めろっっていうじゃないですか

黒田 言わない

トーコ わ！ トレペがこんなにたくさん（窓枠に積む）

千佳 手伝います。

桂木 言っんです！ つまり、用心に越した事は無いって意味で

黒田 念には念を入れるじゃ？

桂木 美しく正しい日本語使いましょ、さあ、

今日も僕は日本人頑張る桂木巡查素敵。

高城 いやあ、まいったよう。窓から抜け出してもいいから飛んでこいだなんて

……………窓が……………無い！

（高城、塞がれた窓を見てガッツポーズ。

電話で、すみませんあの、窓、無いです）

トーコ うう、しかしこうも暗くなつてくるとやっぱり寒いわね。

桂木 焚き火とかします？（新聞紙やトレペをさして）

黒田 火気厳禁（煙草を出しながら）

トーコ 煙が酷くてたまつたもんじゃない（黒田を睨みつつ）

黒田 （煙草を仕舞う）

千佳 どうせだから、コーヒーでもいかがですか？

コップが足りればいいけれど。

黒田 それはありがたい。どっかの間抜けな警察官とは大違いだな

桂木 誰の事だよ

千佳 そんなあ 比べないでください

桂木 酷い！

トーコ はい、桂木君

桂木 ありがとうございます

藤澤 どうも

等々一同、団欒してまったり。そこへ警告発令

声

犯人に警告する、人質を開放して速やかに投降しなさい。
さもないと送電を停止する！ 繰り返し……。

マッド・コミュニケーション

#5 「マッド・コミュニケーション」

実際にはこのシーンはほぼアドリブの為、台本が存在しません。
骨子のみ記載させていただきました。

ニユーススタッフ一同、入ってくる。

クリステルの肩にダウンジャケットを掛けるAD。

カメラとクリステル、会話。

クリステルはどこか苛立っている。

クリステルが何かを言うたびにカメラ、愛想笑いと相槌を打ちながら

クリステルの見ていない所でイヤな顔をする。

そこへカメラの携帯の着信音「ゴッドファーザー」がけたたましく鳴る。

「切っときなさいよね！」と詰るクリステルに対して「すみませ
ん」と言いながら

カメラ、自らの機材をADに投げ寄越して電話に出る。

カメラ ハイ、BOSS……。

カメラが電話中の為、クリステルADを見て「あなたも大変ね」、
AD、一切合切彼女をガン無視！

二人の間に微妙な空気が流れる。そしてAD、何を思ったか機材を

クリステルに押し付け、何処かへと立ち去る。
驚愕のクリステル。呆然と立ち尽くす。
そこへ電話の終わったカメラ、戻ってくる。

カメラ あれ？ ADは？

クリステル、怒りをぶつけるようにカメラに機材を投げつけながら

偽川 どっかいつちやったわよ！

カメラ いやいやいやいやそれより何より、

良い数字出てるみたいですよ！

偽川 え？ 本当??

カメラ やっぱり流石ですね、持ってますね！

そこへAD戻ってくる。

カメラ あ！ お前どこ行って……

言葉（叱責）を遮る様にAD、スケッチブックに書かれた文字を指す。

カメラ 大スクープ???

A D、頷き次の頁をめくる。

カメラ 人質の中にはなんと……。

偽川 なんと?!

二人が固唾を呑んで見守る中、A D焦らしてスケッチブックをめくる。

そこにはガラスの仮面風の絵（恐ろしい子、的な）が描かれている。

カメラ 紫のバラの人！ ……て、馬鹿。

カメラ、スケッチブックを取り上げてA Dをはたく。

カメラ ……バカ！

再び。頭をかかえて蹲るA Dをしり目にカメラ、次の頁をめくる。

カメラ えーなになに……元警視總監のお孫さんが含まれている模様？

ひゃあああああああ！……！

偽川 え？ 何、どうしたの？

カメラ スクープスクープ御飯の種御飯の種！！

偽川 なんでなんで？

カメラ なんてって、え？！ 元警視総監のお孫さんですよ

偽川 だから？

カメラ …… コイツやっぱり馬鹿なんじゃあ

偽川 何？！

カメラ いえ、ね？ つまりですよ、警視総監のお孫さんが居るって事は

この立てこもり事件はもしかしたら警察に恨みのある人間の
犯行かもしれないじゃないですか。

それも計画的な計画犯による計画的犯罪ですよ！

偽川 なるほどね！ あ、でもこのどこの馬の骨とも解らぬ

ADが拾ってきた情報でしょう？ 大丈夫なの??

カメラ 大丈夫ですよ！ 多分、きつとおそらく。それよりも数字数字！

偽川 えー！。

カメラ 偽川クリステルの人気があつてこそ！

偽川 そうかしらあ、じゃあやっちゃんおつかなあ。

カメラ じゃあ撮影入ります！

撮影準備に入りながら八ヶ。

ピクニック

#6 「ピクニック」

ニュースの間に各々新聞紙や雑誌などを敷いて座っている。まるでピクニック。

桂木 そうですかあ。お二人はご兄弟で。

高城 あ、はあ、まあ。

桂木 僕も兄弟多くて、3人兄弟の真ん中なんですけど、

僕が一番出来が悪くて・・・

兄弟も他人も同じですよ。

黒田 他人の始まり、な？意味も違う。

桂木 そういう重箱の隅を叩いて渡るような足掛け技は

やめてくれませんか？

黒田 つつく

桂木 だからそういうのを足掛け技っていうんですよ

黒田 揚げ足取りだよ、気持ち悪い日本語使うな！

桂木 はっはあ〜ん、そうやって人の欠点上げ連つていい気になつて、

あなた、本当に皿が小さい人ですね。

能ある鷹は嘴を隠すって諺知ってます？

黒田 これは、正しく暖簾に腕押しだな……

黒田の溜息に桂木、詰め寄る。

桂木

！

黒田

！

桂木

暖簾は、押さない。

黒田

？！

桂木

暖簾は押しません、くぐる物ですう。

黒田

お前

桂木

暖簾も知らないんですかあ？暖簾って布ですよ

黒田

そうだな。

桂木

だから押せないじゃないですか。

黒田

そうだな！

桂木

あと、暖簾の汚れている店ほど、繁盛してるとか

黒田

もういいって

桂木

あ、あとあとあと、京都の暖簾は長い！

黒田

もういいよ！

桂木

っふ。あなたこそ正しい日本語ってやつを学んだらいいかが

です

トーコ

馬鹿。

高城

っところで、僕達はともかく、そちらの4人はお知り合い

で？

藤澤

僕は関係ありません。

高城

はあ

藤澤

千佳さんとは知り合いですが

高城

妹はやらん！

藤澤

そういうんじゃない……

千佳

バイト先の客らしい、あたしは知らないよ、

お兄ちゃん冗談にも程が有る、千佳はあ、

黒田さんみたいな渋くて暗くて陰のあるちっちゃい人が

いい

高城 そうなの？千佳、え、そうなの？

黒田 (小さいと言われ落ち込む)

桂木 気をつけてくださいね、この男、表面上はこんなちんちく

りんで、

なよっとしてますが、実は詐欺師で、ってか主に結婚詐

欺師で

僕達に睨まれてるんですから

高城 え、そうなの、千佳、そうなの？

千佳 千佳、わかんないw

桂木 で、トーコさんは被害者なんですから

高城 え、そうなの、そうなんですか(トーコに同意を求め)

トーコ 違います。

高城 違うの？

黒田 (詐欺師は) 事実ですよ

高城 そうなの？(黒田に同意を求めるが)

桂木 悪い奴なんです。

高城 そうなの？(桂木に同意を求めるが)

トーコ もう、ややこしいな。すみません、込み入った事情があり

まして

高城 そうなんですか？(桂木に同意を求め)

桂木 違います！

高城 え、そうなんですか、

黒田 そうですね(トーコの台詞に対する回答)

高城 そうなんですか、違うんですか何ですかどっちですか

三人 (それぞれ別々に)

高城 申し訳ありませんがもっと端的にあなたたちの関係を……

桂木 だから、警官で、容疑者で被害者です

トコ 違つって！だからもう……あのですね、

あたしが結婚するのイヤだったんで知り合いの黒田君に結婚して離婚してっていつてしたら桂木くん、幼馴染なんですけどが……

あ、なんで結婚して離婚するかって言うと、

離婚したら女性は六ヶ月間結婚できないわけで、

それで結婚して離婚するのを頼んだんです、結婚詐欺師だから。

あ、黒田君が、それは本当で。

で、でもしたら“結婚詐欺師の意味が違う”って言われて、

そしたら勘違いした桂木君が血相変えておつてきて、

本当に凄い顔だったんだからあれは傑作！ あははははは！で、えつと何でかっていうと、詐欺師だからもあるけど、

あ、黒田君が。

まあ、家庭の事情つてやつで、その辺はあんまり詳しく言いたくないんですが、

あ、そうそう桂木君ちは代々警察の名家でも桂木君おち

こぼれ……

高城 すみません、わかりません、もっと端的にお願いします。

黒田 つまり、ギブ& amp; テイクとそれに勘違いの横槍入れた大ばか者ですよ

高城 だから、分らないっていつてるでしょ！ 何なんですかなた達は！

高城、ややキレ気味。

藤沢が高城に恐る恐る語りかける。

藤澤 アニメの制作さんなんですよね

高城 そうですよ

藤澤 えっと……ミライさんで、ブライトで、スレッガーロウで

すよ

高城 君とは、お友達になれそうだ。

藤澤 それはよかった。

トーコ なにそれ、なんの話し？

高城・藤澤 ガンダムは義務教育だ！

藤澤 ですよー、あっちでもっと語りましょうよ

高城 いいですねえ、待ってました。

等々いいながら隅へ

トーコ ガンダム？ って、何？

声 犯人に警告する、人質を開放して速やかに投降しなさい。

さもないと送電を停止する！繰り返す………

トーコ ガンダム？（声を指して）

黒田 馬鹿。

桂木が皆の呑み散らかしたコップを片付けるのを手伝う。

千佳 あ、ありがとうございます

呼応するかのようにトーク、黒田も片付けを手伝う。
その間奥の方で藤沢と高城、話込む。

藤沢 さつきから無視してるけどいいんですかね

高城 何が

藤沢 あれ

高城 誰も人質じゃないのに、おかしな人ですね

藤沢 いやあ、うーん、え、うーん

高城 ところで、最近のガンダムどう思います？

藤沢 ああ、発想は良いんですけど、MSが茨城のヤンキーみたいですよ

高城 分るわかる、派手すぎだよなあ。君若いのに見る眼あるね

藤沢 いや、そんなことは

高城 君にはいいこと教えちゃうよ。あのね、ちょっとこっち来て

藤沢 はい？

二人、掃除用具入れの前に来る。

高城、藤沢に掃除用具を開けて見せる。

高城 ここが、こうで、こう

藤沢 マジですか!!!

高城 マジマジ。もしかばくなったら……

藤沢 GJ! 高城さんGJ! でもなんで知ってるんですか？

一方、4人。

千佳 さつきからの警告、無視してていいんですか？

トーコ 大丈夫じゃない？何もなければ向こうも動けないでしょ

桂木 だと、いいですけど。

トーコ どういうこと？

桂木 特に考えが有るわけじゃないですが

黒田 こいつの考えなんか充てにならないんじゃないか

トーコ それもそうね

桂木 酷い。

千佳 でも、さつきワンセグでニュース見てたらクリステルが
人質立て籠もり事件”って

藤澤 人質立て籠もり？？？

藤澤、立て籠もりに反応して戻ってくる

藤澤 じよ、冗談じゃない！ 僕は関係ないですよ！

トーコ まあ、そうだけど、まあまあまあ、おちついて

藤澤 え？それはなんなんですか、

僕は被害者ですか加害者ですかどっちなんですか

黒田 そういつ状況か、これが

藤澤 冗談じゃない、まったく。

黒田 さつき俺が話した事を覚えていないのか、お前さんは

藤澤 覚えてますとも、ええ、覚えてますとも。

でもそんな大々的になってるなんてそんな僕には
関係ないじゃないですか。

トーコ 関係ないって、関係有るわよ

藤澤 どこが一体どのへんが
トーコ そりゃあ……。

黒田 とにかく、今ココから正面から堂々でるのは得策ではない、
というのは解るよな

藤澤 そうやってあなたがたの都合のいいほうに進めようとして
いません？

黒田 それならば試してみるがいいさ。

それこそ、お前の事なんて俺は知ったこっちゃ無い。

藤澤 高城さん（助けを求め）

高城 え、僕は……もう少しココで英気を養いたい。

いざとなったら ねえ？

藤澤 ち……千佳さん、千佳さんだってさっき出たたって

千佳 でも黒田さん困るんですよね？

黒田 そうですね

千佳 千佳、困っている人の事見逃せない

藤澤 そんな……僕は？

声 犯人に警告する、人質を開放して速やかに投降しなさい。

さもないと送電を停止する！繰り返す……

桂木 あのう、こういつた場合って、要求とか、

そういうのを相手側に提示して回避するものなのでは？

トーコ 要求?! 要求って、逃げるための飛行機とか？

誰が操縦できるのよ!

黒田 あとは、政治犯の解放とかな。

桂木 それじゃ、まったくテロリストだ

黒田 ははは。

千佳 でも実際に立て籠もっているわけじゃないんだから

何も、出来ないですよね？

黒田 お嬢さんは賢いな、そのでかいの（藤沢）と違って
千佳 もう、ヤダあ黒田さんたらあw

トーコ で、じゃあ藤澤君、結局のところ君はどうするの？

藤澤 は？

トーコ どうするのか、よ。

藤澤 どうするって……まあ、そんなのあなたには

関係ない事じゃないですか。どうもしませんよ。
あ、ちよっと電話……。

藤沢、電話に出る為奥へ。

トーコ 黒田君は、どう思う？

黒田 ん？

トーコ 警告

黒田 ああ、少し、考えた方がいいと思う

トーコ 桂木君、ちよっと来て。

黒田、トーコ、桂木、奥の方へ行き何か話している。

真剣10代(?) 喋り場

#7

「真剣10代(?) 喋り場」

千佳、まだ片付け終わっていないかったポットなどを片付ける。手持ち無沙汰の高城は壁にもたれかかって、少しすると鼾。三人は何やら話中。藤澤、トイレから戻ってくる。

藤澤 ……

千佳 なにやら大人たちは話が有るみたい

藤澤 (溜め息)

千佳 なんかあったの？

藤澤 また、だめだった。

千佳 何が

藤澤 就職

千佳 ああ。

藤澤 親にも連絡しないと……ああイヤだ。また何か言われる。

千佳 まあね。え、どんな方向に就職したいの？

藤澤 別に

千佳 別に???

藤澤 別に、どこだっっていんだけど。

千佳 え、夢とかって無いわけ？

藤澤 夢？ ああ、写真家になるのは夢だったかな

千佳 写真好きなの

藤澤 あー、まあ。絵が、描けない僕にとっては、一画期的だったんですよ

千佳 じゃあ、写真の方向に進めばいいのに

藤澤 そんな才能無い

千佳 そうなの？

藤澤 え、そうでしょう？

千佳 ふうん、見せてよ

藤澤 え？

千佳 なんか持ってないの？

藤澤 あ、携帯の位しか（見せる）

千佳 え、これ、携帯で撮ったの？

藤澤 あ、はい

千佳 すごい、凄い素敵じゃん！

藤澤 レフだともっと構図も取れるし、

千佳 天体写真も撮るのは大変だけれど、いいのができるよ
え、もったいない、これだけ出来るなら

本当にプロ目指してみればいいのに

藤澤 無理だよ、ああ、うん、そういう気持ちが無いといえは嘘になるけど、

家庭を維持できない、夢を追ってる男なんて馬鹿馬鹿しい。

千佳 そんなことないよ、そういう方が生き生きしてて

魅力的だと思うけどなあ、あたしは。

藤澤 まあまあ、才能が無いんですよ、それに、親が赦さないでしよう

千佳 そんな事無いと思うけど。

藤澤 そうなんですよ。

千佳 じゃあスッパリ諦めて、就職活動したらいいのに

藤澤 しますよ

千佳 本当に

藤澤 ええ

千佳 ……。

藤澤 関係ないじゃないですか、あなたには

千佳 そうかもしれないけども

藤澤 僕には、そんな環境ないし、才能無いし、きつと。

だから無理なんですよ。たぶん。

ああ、千佳さんが羨ましいですよ。

声優になる夢、追いかけられる環境に恵まれていて。

千佳 ……。

藤澤 ……。

千佳 やってみないだけ。決断を先延ばしして。

本当にしたい事だったらいつだってできるのに。

藤澤 そうは言うけれど、僕だってやりたいよ、

好きな事を好きだけやれる人生なんて楽しげじゃない

ですか。

でも、両親が……。

千佳 だから、藤澤さんはそれを理由にしているだけなんじゃない

いですか？

藤澤 理由に？

千佳 じゃあ、聞きますけど、反論しました？攻撃しました？

押し負けないくらいの気合とかってあります？

藤澤 そんなこと、だって、無駄だって

千佳 無駄？

藤澤 そんなこと無駄だって分かってるじゃないですか。端から。

だったらむだな労力を消費するのは馬鹿げていませんか

ね？

千佳 じゃあ、ああ、だから……藤澤さんの姿勢はなんだか嘔吐

きなんだ。

だって、そうじゃない？本気で写真をやりたかったら、

いまだって、

だもの。

きつとカメラを手放してないよ。こんな状況、スクープ

うん、ううん、それだけじゃなくて、それじゃあ、
なにかコンクールとかに応募したことあります？
どこかに弟子入りとか考えた事ありますか？

そんなに好きなら勘当されたっていいじゃない、けど

自分にそんなに才能ないってことくらい分かっているんで

すよ。

千佳 どうして？

藤澤 20も過ぎればなんとなく、なんとなくですよ。

限界って、みえてくるもんなんですよ。

あなたには、分からないかもしれないかもしれませんが。

千佳 分からない、そうかもしれないけど…なんていうか、

そこまで自分はもう趣味でやるって決めているなら、

本当に腹括って就職活動してたんですか？

とても…そうは、見えなくて。

藤澤 それはどういう？

千佳 だって、今、超売り手市場ですよ？ どこだっていい、

とにかく就職しようって決めてたらどっかしら決まるもん

でしょう？

それも出来ないのは、見透かされてるんです。

藤澤 何を？

千佳 そういつ、藤澤さんの、優柔不断な……なんだろう。

全部周りのせいにするようなところ……ごめんなさい、

上手く言えないんだけど、なんだろう、

写真にも就職活動にも中途半端で、不熱心で、どちらも

できなかつたら、

自分の気持ちを無理強いさせたのは親のせいって。

それは、あんまりじゃないかなって。

藤澤 そんなつもりはないし、僕は僕なりにやっってるつもりなん

ですがね、

千佳さんはじゃあ、どうしろって言うんですか？

千佳 だから、そういうところだよ！ただの臆病者じゃないか。

藤澤 …。

高城 千佳、ちょっと言いすぎだと思うけど。

千佳 お兄ちゃんは黙ってて。っていつか、さっきまで寝てたく

せに

高城 いやいや、だってほらさ、彼はなんていうか、

ごく一般的なすこぶる今時の若いもんってやつだとおも

うのだけど

千佳 だから何？

高城 だからさあ、ウチはね、親が超放任主義だからなんていう

か、

自分の好きな事を好きなだけやれる、

ある意味では超恵まれた環境だから言えるんだって。ね

え？

藤澤 はあ。

高城 ま、それだけ藤澤君ちのご両親は立派な人なんですよ。

息子思いで。ああ、うらやましい。

千佳 お兄ちゃん！ もう、お兄ちゃんなんて知らない！

高城 ああ〜嘘嘘、千佳の言うことは間違ってるから、ね、う

ん。

千佳 それでも知らない！

高城 そうか……なら仕方が無い。千佳への借金は無かった事に

なるって事だね

千佳 ちよ！ え！ なにそれ！ どうしてそうなるのよ！！！！

藤澤 いい親？

なんとなく二人の会話を聞いていた大人たち、会話に口出しして

来る。

黒田 そういうことになるんじゃないか。

藤澤 冗談、あんな口うるさいだけのババア

黒田 そう言えるってのも幸せなのさ

桂木 僕は藤澤さんの気持ち分からなくもないですよ。

藤澤 ですよ、なんだかんだ、いちいちいちうるさいんですよ

千佳 だからそうやって、他人のせいにしてるのはどうかっていつてるんだよ

藤澤 別にこれは僕のどうのこうのって訳じゃないでしょう、

理由にしてるわけでもなんでもなく、ただの愚痴ですよ

千佳 それでも、悪く言うな！

高城 千佳

千佳 まあ、別にいいけど。そう言えるだけでもいいって事を

弁えろ、馬鹿

藤澤 馬鹿？

高城 千佳！

千佳 お兄ちゃん、でも

高城 ちよつとこつち来なさい。

高城、千佳を個室へ連れ込む。

「千佳、座りなさい。ちゃんと！ 座りなさい。」

以後の千佳と高城の会話は個室の中から漏れてくる。

トーコ 桂木君、今外どんなだと思っ？

桂木 え、僕ですか、僕には皆目見当着きませんよ

黒田 俺ならば、そうだな、攻めあぐねるかな
トーコ 攻めあぐねるって？

千佳 お兄ちゃんの馬鹿！
高城 馬鹿とはなんだ、もう、約束なんてまもらないぞ

黒田 この状況にだよ、おそらく外ではこれを、
人質を取っての何らかの要求があるとか、

桂木 あるいは警察に恨みのあるものの反抗と取るだろうね
ははん、なるほど？ でもなんでそんなことが分かる？

黒田 それはだ、あのときを思い出せばいい
トーコ あの時？

高城 そんな事言ってる千佳の歳をばらすぞ！

千佳 それはこまる！

高城 昭和……昭和……

千佳 あああああ！ 平成！ 平成！！

黒田 俺と、トーコとそのの巡査が出会った状況だな。

あいつ無線で連絡してたら？ 凶悪犯と例の明星発見って

桂木 あーたしかに

黒田 ならば当然、警察は、まあ上層部は気づいているんだろ、
こいつの存在を

トーコ えー……。何てことしてくれるのよ、桂木君

桂木 僕が悪いんですかあ？ そもそも家出したトーコさんが

黒田 置いておいて！ 現状、そういった人質がいるとして、

警察に恨みを持ったものの犯行かもしれない、

しかしながら犯行声明がなされていないこれは理由なき

犯行、

そうなると、奴ら動きたくても下手に動くわけにも行か

ない、

本当は警察に恨みなんかなくてただの変質者の犯行だったとしたら？

通称“明星”の危機だ。

桂木　はあん、なるほどお？　中卒にしてはやりますね

黒田　あんたは大卒にしては馬鹿すぎる

桂木　の！

千佳　お兄ちゃんが約束破るなら借金返して

高城　う……それは困る。

トーコ　と、とにかくとにかく、もう少しこちら側としても

静かにしていた方がいいってことよね？

黒田　まあ、そういうことだ。

高城　じゃあ、今度オーディション紹介するから、誤りなさい

千佳　絶対だよ！　嘘つかないでよね！

高城　マジだからあ

桂木　でもですよ、本当に日本の警察がこのまま

手を握ねていると思います？

トーコ　こねる？

黒田　こまねいている、な？

桂木　それ！

黒田　それもまあ、ありえないだろうから様子を伺おうって事だよ

高城、千佳の手を引いて個室から出てくる。

千佳、不貞腐れながら

千佳 さつきは言いすぎたわ、ごめん。

藤澤 別にいいけど

桂木 こういった状況の場合、警察はきつと情報を引き出そうって来ると思ってます

トーコ え、もしかしてそれってさつきから警告されてる？

黒田 まさか、こちらが動かない限りあんな実力行使には移らないだろう？

桂木 動かないからなんですよ、追い詰めて追い詰めたらなにかはくかも知れない的な

黒田 ああ…たしかにお前ら組織って短気な所あるかも

トーコ え、じゃあ不味いんじゃないの？

声 警告を無視した事により、これより、送電を停止する！

トーコ そんなあ…

停電。

仄暗いトイレの中から

8 「仄暗いトイレの中から」

桂木 痛い！（頭をぶつけて）

トーコ アー、慣れてきた、慣れてきた。をを。

意外と明るいもんだね。

黒田 明るいもんだろ。東京だぜ？

トーコ そうか？

黒田 そうさ

トーコ 実感なかったな。

黒田 そうだろうな

桂木 どうしましょう。

高城 理不尽ですね、僕達は何をしたって言うんだ！

と、閉じ込めたのは警察なのに。

桂木 そうですが……

高城 あああ、もおお、犯人さん早く自首してください！

黒田 まだ状況が解ってなかったのか！

トーコ 犯人なんていやしないって言いませんでした？

高城 そうか！ 犯人はお前か！

トーコ 違う！

桂木 高城さん、あのですね、立て籠もり、と解釈されているん

ですよ

高城 何が

桂木 僕らが

高城 なんで

トーコ めんどくさい、ほっとこう。

高城 ええ?!

藤澤 ほら、だから、これだ。

トーコ 何?

藤澤 いいええ

トーコ え? 言いたい事があるなら言いなさいよ、ちょっと

黒田 やめろ

トーコ でも

藤澤 トイレ。

藤澤、一度小便器に向かう。

だが背後からそつと覗こうとする女二人の
視線が痛いので個室へ。

桂木 なんだか、押入れの中を思い出すなあ

トーコ 何だよ

桂木 ほら、小さいときに悪い事して怒られたとき、
よく押入れに閉じ込められませんでしたか?

母さんが、この中で反省しなさい! って言って、
ピシヤって襖を閉めると、暗くて怖くて、

泣いても叫んでも誰も来なくて余計にこわくなって

黒田 理不尽だな

桂木 もうしょっちゅうでしたよ、そんな事なかったですか?

黒田 ……ああ。いや。俺の場合はよく……逃げたよ。

桂木 押入れに? 怖いじゃないですか。

黒田 いや、安全だったから……

黒田の幼少期や身上を知るトーコは桂木の無遠慮な質問に冷や汗、

あわてて話題を変えようとする。

トーコ 逃げたといえば、親と喧嘩したときってさ、
トイレに逃げ込まなかった？

黒田 何故だ！！

桂木 わかります！

トーコ まだ小さくて、自分の部屋に鍵が付いてなくてさ、
鍵付きで逃げ込めるところといたらトイレ位しかなくて

桂木 そうそう

トーコ お菓子とか持ち込んでトイレに

高城 僕も経験ありますよ。

トーコ ほら、やっぱり！ でしょ。

高城 僕の場合はカップラーメンと給湯器でしたが。

トーコ え……（ひく）

桂木 漫画本とかも持ち込みましたよ

トーコ そうそう、そんな時はトイレでなら生活できる、
位の気持ちでいて

高城 水も有るし

桂木 何よりトイレがあるから

トーコ でも結局、お菓子も食べちゃって、漫画も読んじゃって、
そしたら急に虚しくなっちゃったりして、

高城 それで観念して出て行くと、お母さんが夕飯の支度してて
そんな日に限って、カレーだったりして、

桂木 ドア開けた瞬間いい匂いがしてどうでもよくなって
懐かしいですね

黒田 …… ああ

トーコ あ……。

高城 え？

トーコ ごめん。

黒田 いや。
桂木 何です？
トーコ ううん
桂木 何ですか？
黒田 何でもねえよ
桂木 なに怒ってるんですか。
黒田 怒ってないさ
桂木 ああ、もしかして、黒田さんのお母様は料理が下手だった
とか？
黒田 ……。

SE 流水音

トーコ 桂木くん。
桂木 はい？
トーコ 空気、読もうよ。
桂木 ……！！

藤澤、出てくる。千佳、沈んだ様子で個室にもたれ掛かって立っている。

藤澤 ……別に・・・気にしてませんから
千佳 電気つて暖かいんだね
藤澤 え？
千佳 寒いし、疲れた
藤澤 あの、これ

藤澤、千佳が哀れに思い、自分の上着を千佳に渡す。

千佳 ……。

千佳、上着を受け取って、羽織るかと思われた瞬間床に敷いて、その上に座る。

藤澤 ああ！！

トーコ ずいぶんと長かったわねえ
ウンコウンコウンコマン！

藤澤 小学生ですか！

桂木 しかし、困りましたね

トーコ え？

黒田 電気つてのは付いているだけで案外暖かいものさ

トーコ そうかな

高城 そういえば、さっきより寒い気が……。

トーコ そうかな

千佳 おばさんはババシャツにホットカイロだからな

トーコ あんたねえ、あたしに恨みでも有るのさつきから噛み付いてきて

高城 千佳！

桂木 ともかく、これから夜がくけてくればもっと、
寒くなってきましたよね

一同、なんとかテンションをあげようとする中で藤沢、空気に逆らうように呟く。

藤沢 僕は、思っていましたよ

トーコ 何を

藤沢 こんな馬鹿げてるって。だからあの時出ておけば良かったのに

トーコ 何よそれ

藤沢 なのに引き止めるから

トーコ あたしのせいってわけ

藤沢 そんな事言ってますんけど？

トーコ どうするのって聞いたのに？

藤沢 そうですね、僕が悪いです

トーコ そういいうい方はどうかと思うけど？

藤沢 言い方に固執して本質を見落としてると
イイ事ないんじゃないですかね

トーコ ちよつと！

高城 まあまあまあ。疲れてきたし寒いし気が立つのも解るけど
桂木 そうですよ、落ち着いて

トーコ お黙り！

桂木 ワォーン

黒田 まさしく犬だな。

高城 ワォーン

黒田 匂いが。(高城に言う)

高城 !

高城、消臭スプレーを自分にかける

トーコ 不満が有るならきちんといいなさいよ

藤澤 関係ないじゃないですか

トーコ 何が

藤澤 え？だって所詮他人でしょ。僕も、あなたも赤の他人、まして今日始めてあった人に、僕の何が解るっていうんです？

トーコ そうかもしれないけど、だけどあんた何か

アクシヨンを起こしたわけじゃないじゃない

藤澤 アクシヨン

トーコ ココから出るためにわたし達を説得するとか

藤澤 ああ。

トーコ なのにココに来てそうやって言うわけ？

藤澤 すみません、馬鹿なんで、先読みとか出来ないんですよね。

トーコ それは関係ないでしょ

藤澤 そうです、関係ありません。

もう、僕一人が何を思おうがあなたには関係ないじゃない

ですか

トーコ ……。

黒田 寒いな。

千佳 無駄ですよ

むっとして沈黙するトーコに対して千佳、投げやりに言う。

トーコ え？

千佳 そいつに何言ったって

トローコ ……。

千佳 行動しようとしらないもの

桂木 鼻水でできた（トレペで鼻をかむ）

高城 千佳、もういいから

黒田 奴らが若いのか、俺が老けているのか、どっちだろうな

桂木 え？ そんなに変わらないのでは？

黒田 羨ましいっていう感情なんだろうな

藤澤 そういつ千佳さんだって、そうじゃないんですか？

千佳 そんなこと

藤澤 さつき言ってた壮大な持論、

本当は自分だってそうは思っていないんじゃないですか

千佳 そんなこと……

藤澤 誰だってそんな事、一回や二回や三回よりもっと多く考えてるんですよ。

ただ現実を凝視したときに無理だって諦めるんじゃないで

すか。

千佳 それは

藤澤 むしろずると、自分の今の自分自身を等価評価するのが怖いからそうやって逃げているだけなんじゃないですかね。

千佳 そんなの……

藤澤 すみません、毒舌なんです。

でもあなただってそうなんだし、言われても仕方ないですよ？

千佳 酷い（千佳、堪え切れず涙声に）

藤澤 ずるいですね、いざとなったらお涙頂戴、儂さを売りにすればまあ、

そりゃあウケはよいでしょうけれど。

僕だって、泣きたいんですからね？

トーコ、千佳の元に歩み寄り頭を撫でる。

トーコ よしよし……そんな風にいう必要ないのにな

千佳 トーコさん……

トーコ さっき言ってた事、間違ってたよ

千佳 でも……

トーコ 言いすぎちゃったことくらいあるよ、反省してるんでしょ

千佳 (頷く)

高城 千佳……

千佳 お兄ちゃん！

千佳にトイレトペーパーを渡す高城。

それに甘えるかと思いきや……

千佳 (非常にドライな声で) あいつ、殴って。

高城 え、いや、あ、その。

トーコ 妹泣かせたんだし一発くらい、いいんじゃないの？

高城 よし！

高城、藤沢に詰め寄り振り被るが、藤沢の方が高城より10センチほど背が高い。

高城、藤沢に一礼し、戻ってくる。

高城 千佳、……ごめんお兄ちゃんリーチ的に無理。

千佳 お兄ちゃんの馬鹿！ うわぁーん。

高城 ほら、化粧流れちゃうよ、ティッシュティッシュ

高城と千佳、個室の方でぐずぐず。

桂木 本当に何だか腹が立ってきた！

黒田 そういふものか？

桂木 え？ だって

黒田 そうなのか、どうなのか、俺にはわかりかねる

桂木 ああ、やっぱりそれは詐欺師だから、

人の気持ちなんてわかってたら詐欺師なんてできないです

よね

ああ、そうなんじゃないか？

黒田 本気で言ってるんですか？

黒田 本気だよ、俺にはあんなふう悩んだ事なんか無いし、

泣く気持ちもいらだつ気持ちもわからないから。

ただ、メンドクサイと、煩わしいと感じるだけだよ。

桂木 最低だ。（黒田に対して）

トーコ 最低だわ（藤沢に対して）

藤澤 トーコさんは、カッコイイですね。

トーコ 何？

藤澤 僕はいつも悪役なんですよ、受難でしょ。
別に？ 同情して欲しいとかじゃないですよ？
でも、はあ、本当に。損だとは思いますが。

黒田 最低、結構だよ。

桂木 トーコさんが何でお前に惚れたのか、理解できないな。
黒田 ふふ、まあ、俺も儂さを売りにしている口なんだね。

トーコ いいわ、好きなようになさりなさいよ、
なにしてももう止めないわ。出て行きたいならば、どうぞ。

藤澤 嫌ですよ

トーコ どうして

藤澤 え？

トーコ 何よ、何なのよ、何がしたいのよあんたは！！
藤澤 なんで僕だけが責められなきゃならないんですか、
そもそも原因はこんな状況になったことであって
それに関して本当に僕は関係ないじゃないですか！
でもやろうと思えば何だってできたはずでしょ！

トーコ そうかもしれないですけど

藤澤 でも何もしなかったって事は甘んじていたわけですよ

藤澤 出たいと言いました！

トーコ でもすぐ退いたじゃない

藤澤 それは止められたからですよ

トーコ つてことは本気じゃなかったって事でしょ

藤澤 どうしてそうなるんです

トーコ だから、あんた、何もしようとしないじゃない、
さあ、どうぞ、今ならば何をしたらいいわよ！

そこから出て行くなり助けを呼ぶなりすれば？
してみなさいよ、ほら、
責めるなら責めるだけのこととして見せなさいよほら！

黒田　しかし、カレーか。料理が下手なのはトーコだろう
桂木　黒田さん、はぐらかさないでくださいよ
黒田　まてよ、今、面白くなりそうだろ、水を差しちゃ悪いじゃないか

藤澤　しちやいけないことなんて何も無いのかもしれないけれど、
していいって保障されている事だって何も無いじゃないで
すか。

それなのに、じゃあ、何の為に？
剥きになったり、嘆いたり、腹がたったり…全部、
全部煩わしいだけじゃあないですか。

トーコ　詭弁ね
藤澤　そう思われるならそれで結構です。

トーコ　千佳ちゃんは鋭いわ。あんたがそんなんじゃ、受かるわけ
ないわ

藤澤　それは関係ないです
トーコ　後悔する

藤澤　え？
トーコ　そういう風に、けじめをつけないで進んだら、後悔するよ
藤澤　今度はお説教ですか？

トーコ　自分になんて何も出来ないとかそういう風にして、
それだって本当の自分を知るのが怖いだけで、
それに気が付いてから戻ろうとしたって、年とったら、
戻れないんだからね

藤澤 あなたの為に言っているのよってですか、まるで母親みたいですね。

トーコ 自分の人生を、過去を道程を、後悔する事は死んでいるのと同じだ

失敗したっていい、迷ったっていい、挫けたって泣いたって惨めだっいいい。

一分、一秒、コンマ一秒、私たちは幕を引いてゆく。

そうしてコンマ一秒、一秒一分、先に進んで進まされて流されて、

そうして繰り返される中で、戻ってこないこの一秒を後悔していたら

後悔する事なんかに使っていたら勿体ない！

そんなのは死ぬために生きているようなもんじゃないか、私は生きるために死んで行きたい。全て、私の全て、きつ

と、

無駄な事なんて何一つ無いって、そう、信じてる！

藤澤 だから！ 後悔しないために諦めるんじゃないですか！

トーコ でも諦め切れてないじゃない

藤澤 諦めてるんですよ！

トーコ 全部周りのせいにして、それはとても楽だけれど、

だけど、そんなんじゃないあ、それじゃあ卑怯だと思わないの？

藤澤 思いますよ！ 思ってますよ、わかってますよ、

自分にだって解っていますよ！ ぜんぶ解っていますよ！

でもどうしようもないじゃないですか、どうしようも！！

その時、藤沢の携帯にメールが来る。藤澤「母さんか」舌打ちしながらメールを見る。見てすぐに目を背ける。トーコ、画面を覗く。

トーコ「さつきはあんなふうにしたけど、

家は裕福じゃないけど食べていけないほどでもないから、だからそんなに焦らなくてもいいからね。

もし本当にやりたい事があるならば、

本気を見せてくれたらお母さんがお父さんを説得してあげるから。

郁弥はがんばってると思います。この頑張りは無駄にはならないよ。

だから焦らなくてもいい、ゆっくりでいいからね。

最近は冷え込んでいるから風邪には気をつけてくださいね。

母よ

り。

なんだ・・・いい親御さんじゃない？

藤澤、糸が切れたように慟哭。

トーコ おう、泣け泣け。

黒田 いい、母親か。

桂木 そうですよ、羨ましい。僕なんて生まれたところから警官国家公務員目指せとしかいわれなかったのに。

黒田 でも、地方公務員なのはなぜだ

桂木 出来が悪かったからですよ、一番兄弟の中でも。

黒田 恵まれた環境にいたんだろ、だったらなぜ努力しない？

桂木 したさ！ 当然、けれど、無理なものは無理だ、

黒田

あんたに努力だとか言われたくないね
俺としちゃあ、羨ましいとも思わないが、

桂木

お前さんみたいな境遇だったらそれをフル活用するがね？
そんなのは外から見ると言えるんですよ

黒田

そうかな？

桂木

どうしてなかなか食ってかかりますね

黒田

怒っているのか、まあ、いいさ。

桂木

それに、やれやれって言われると余計

桂木

やる気って失せるもんじゃないですか。

黒田

わからんね

桂木

そうでしょうね。

黒田

自由気ままにフラフラと羨ましい限りですよ、本当に。

黒田

本当にそう思うのか？

桂木

思いますよ。

黒田

話を変えよう、俺がどうしてこんなことしているのかって

事だ

桂木

結婚詐欺師ですか？

黒田

本業はもつと違うんだけどな、女を弄ぶのは趣味なんでね

桂木

悪趣味な

黒田

ささやかな復讐さ。結婚詐欺っていうが、それなりに大変

でね。

相手は納得して満足しているわけだし、別にいいじゃねえ
かと思うんだが。

桂木

なあ、巡查さん、悲しいって、知ってるか？

桂木

意味ですか、馬鹿にするのも

黒田

馬鹿、そうじゃねえよ、そういう……：気持ちの事だよ。

なあ、その気持ちになるとどうして涙が出る？ そこに直
結するんだ？

それに気が付いたのは中学の時だよ、女子に告られた時、
別にどうとも思わないと言ったらそいつ泣いたんだ

高城 青春の一ページってやつか

黒田 お前は黙ってる

高城 ハイ……。

桂木 そりゃあそうでしょうね

黒田 その時さ、初めてどうやら他の人間には、なんだ、

所謂感情というものがあるらしいと認識したのさ

桂木 はあ？

黒田 それからは人を避けたね、避けて避けて本を読み漁って、

自分が何者なのか、感情とは何なのかというところを調べ

つくしたさ。

怒り・悲しみ・喜び・不安・絶望・希望・信じる・愛する・

落ち込む・混乱・嬉しい・苛立ちありとあらゆる物をね、

そうだな、この時の俺ってのは所謂、

不安とか混乱とかがつたやつだったのだろうが、

そしてこうなってしまった原因が俺の存在を存在ごと認識

しよう

しなかった俺の母親のせいだと解った時、

所謂憎しみってやつが舞い降りたのさ。

トーコ 黒田君どうしたのそんな話して

黒田 俺にとって女ってのは憎むべき存在でも有るが

決して届かない存在でもあるのさ

桂木 よく意味がわかりませんが。

トーコ その話、するのイヤだったんじゃないの？

黒田 巡査さんには解らないだろう？

桂木 ……わかりませんよ。そんなの。

黒田 いいさ、あんたには理解してもらおうとして言ったんじゃない

ない。

桂木 けれど……それって、至極自分勝手な話なのではないですか

トーコ 桂木君、そんな簡単な話じゃないよ、これは。

桂木 けれど あ、って事は！

黒田 なんだ

桂木 お前、トーコさんを騙すだけならまだしも、
当て付けにしてたってことか

黒田 騙す？ トーコを？ まあ、お前がそう思うならそうかも
しれないなあ。

桂木 それは酷いですね、だって、そんな……
気持ちを弄ぶなんて

トーコ 違うの桂木君、あたしはね、あたし達はね

桂木 トーコさんが赦しても、けれど、僕は

トーコ 桂木君！

黒田 一発殴らなければ気がすまないってやつなのか

桂木 そうだよ！

トーコ ちよつとやめて！

桂木 ずっと兄弟みたいに近くにいたんだ、小さい頃から憧れて
たんだ、

僕には手の届かない人だったんだ、

だから幸せになってくれれば僕も嬉しかったんだ、

お前のことを話すトーコさんが笑顔だったからそれでよか
つたんだ、

でもでもだけど、それなのに

傷つけて楽しいか、それで満足なのかよお前は……

桂木銃を構えて

トーコ 桂木君!!!

桂木 それで満足なのかって聞いてるんだよ、答える!

黒田 ああ。

桂木 貴様!

桂木、黒田に掴みかかるが黒田かわして逆に桂木を殴る、
桂木、掴みかかりもみ合いに、その中で銃暴発。

SE 銃声

クライマックス

#9 「ADはただこの台詞を言う為だけに存在して
いるとか勘ぐってはいけないよ?」

一方、ニューススタッフは……。

偽川 もうー寒いし情報入らないし寒いしお腹すいたし嫌

カメラ そうですねー、

偽川 モナめ!

カメラ モナちゃんは関係ないでしょう、関係は。

天気予報でも夜から雪っていつてましたね。寒い。

偽川 モナめ!!

カメラ いやだから、モナちゃんは関係ないでしょ! もう。

偽川 寒いし暗いしこう着状態だし、帰る、もう帰るう

カメラ もううるさいなあ。

偽川、カメラをポカポカ殴る。

あ、イタ、酷、辛……嘘ですよ、うそお。

AD (どさくさにまぎれてカメラをポカポカ殴る)

カメラ いてえなてめえこのやる!(ADにだけ返し)

偽川 でも、不思議。なんだかねいつも現場に行くと、嫌な感じ
するじゃない?

カメラ そうですね?不穩で楽しいにおいがします

偽川 最低私ね、現場の仕事が嫌いだった。いつもね、

事件のときは誰かが悲しんで泣いている、けれど、
なんだか私たちはそれを押揃っているようで茶化してい
るようで、その空気が。

カメラ ご飯の種です！

偽川 だからね！ それが嫌だったんだけど、この現場に関して
はなんか違うのよね。

平和って言ったらおかしいし、巻き込まれてる方々、
元警視庁長官のお孫さんとかにも不謹慎で失礼なんだけ
ど、

なんていうか、あなたの言い方でいうならあれよね、
そういう苦しい、苦い、匂いがない…

SE銃声（小さい）

偽川 ん？ 何の音？

カメラ 音なんてしました？

AD ……銃声

カメラ え？

AD 銃声だ！（コードを持って走り出す）

偽川 え、本当に、大変！ スクープ！（続いて走る）

カメラ いやいや、そんな馬鹿な、ってか、お前喋れたの？

って、ああああああ！（コードを引っ張られて退場）

トーコ…………。
黒田…………。

黒田、腹を押さえてそれから手のひらを見て二三度息をついて、
よろめいて、壁にもたれかかる)

桂木 嘘…………だ…………。

黒田 (背中ですべるようにしゃがむ)

桂木 嘘だ!

千佳 (咄嗟に駆け寄り) く、黒田さん!

黒田 ……っ大丈夫。

千佳 ちよつと、失礼します…………お兄ちゃんも、ぼやっとしてな
いで手伝って!

高城 あ? え? 何を

千佳 大丈夫、貫通してもいなければ弾が中に有るわけでもない
みたい、

高城 つまり、掠っただけだと?

千佳 というか、挟れたというか…………

それでも血はいっぱい出てるから、止血しないと。

黒田 手馴れてるんだな。

千佳 (エプロンを脱いで) 手馴れてなんかないですよ!

でも、一応看護学校に通っていたことがある、程度なも
ので、

私じゃあこれくらいしか出来ない、

ほら、お兄ちゃんぼやっとなしないで! そのマフラー貸
して!

高城 お気に入りなのに

千佳 人命救助!!! (マフラーを無理やり引っ張る)

高城 う……苦し……殺されるっ！

トーコ (ずっと額に手をやったまま黙っていた) まずいな。

千佳 ええ、不味いですね。

トーコ ……外が、騒がしい。

千佳 え？

トーコ この銃声、当然外にも聞こえているわよね、

桂木 ……。

トーコ くる、きっかけに、きつと、もうじき、終わる、くる、

千佳 何を言ってるの！ 今はそれどころじゃない！

人が、怪我してるのよ、それも擦り剥いたとか打ち身とか捻挫とか

そんなんじゃない、銃で撃たれたの！

もうそんな事どうだっていいじゃない

トーコ よくない。

千佳 トーコさんは、あなたは心配じゃないの黒田さんのことが

トーコ そうじゃない

千佳 結局、こんなときになってまで自分の保身が重要ですか？

トーコ 違う

千佳 あなたが何で警察の前に出る事が出来ないのかは分りかねますが、

でもひどいですよ！ そんなの

トーコ そうじゃなくて

千佳 最低ね、最低よ！ 女として人として、あんた、最低だわ

トーコ ちよつと、ねえ、ちよつとだまっててくれないかなあ？

あたしはあたしなりに色々かね？ 考えているのよね？

ここに、今、この状態で突入されたら、そりゃあ、別に、

構いませんけども、私は、貴方はね？

けれども、一番困るのは、そこでくたばってる黒田君と

黒田 まあくたばってない。

トーコ この馬鹿息子でしようが！

千佳 トーコさん

トーコ なんだかんだとよくも抜かしてくれやがったな！ この……

桂木 僕は……

トーコ 桂木君も、考えて

桂木 いえ、無理ですよ

トーコ 桂木君

桂木 僕は……どうせ、落ちこぼれなんです。一族の厄介者なんです。

父に、いや、一族にこれ以上迷惑はかけられません。

いくら警察庁次長の息子だからって、でもこれは。父の首に関わります、

それだけじゃない、兄や弟にも影響します。

だからトーコさん、どうかかばわないでください。

僕は、警察官に、なるべきじゃなかった。

トーコ ……そうかも……ね。

桂木 はい……。

(沈黙)

トーコ 結婚しようか。

桂木 ……。

黒田 ……。

桂木 は？

トーコ いやいや、だから、そういうことで。

桂木 え、あ、え？ 何故

トーコ 考えてただけどさ、桂木君が全面的に悪いんだけどさ

桂木 ごめんなさい

トーコ 誤るなら黒田君に謝りなさい

桂木　ごめんなさい

黒田　いやあ……

トーコ　でもさあ、起こっちゃったものはもう仕方ないじゃない？
だからさあ？

とりあえず結婚とかしてみたらもつとなんとかなるかも
なつてさ。

うん、まあ、桂木君ならいいし。別に。うん。

だつて桂木君警察辞めたくないでしょ？

桂木　あ、ええ、まあ。

トーコ　あんた意外と交番勤務とか好きなんでしょ

桂木　けつこう天職と思つてます

トーコ　だからさあ、あたしもそう思うのよねえ、だからね！

桂木　いやいや、さすがにこの事態はトーコさんのお力添えがあ
つても

なんともならないかと思ひます。

トーコ　じつちゃんに頼んでもむりかなあ？

桂木　そもそも破談になるかと。

トーコ　でも……。

桂木　それと！　僕は……その……僕はトーコさんのことが

好きで好きでこんなちっちゃい（ジェスチャー）ころか
ら憧れてましたけど

高城　　どんだけちっちゃいの、普通こう（ジェスチャー）

桂木　　でも、僕は、寛和木トーコではなく、小田嶋トーコ、その
人が好きなんです。

もし、僕が僕という存在が貴方から自由を奪つてしまふ
ならそれは、

本位ではありませんから。

トーコ　あ……桂木君……。

黒田　　全部俺のせいにするばいいだろ？

桂木　　え？

トーコ 黒田君？

黒田 俺が、銃奪って、人質とって、立て籠もって、お前が取り押さえようとして誤射して……そういう風になれば……いい。

千佳 でもそれじゃあ黒田さんが！

黒田 俺か……っは、そもそもが、そういう人間だから、

どのみち……お縄だろ？ だったら、かわんねえよ。

トーコ あんたは逃げんの。

黒田 無理だ。

トーコ 逃げる

黒田 もう遅い

トーコ 逃げなさいって言うてるのが解らないの？！

黒田 どうせ、逃げたってなんにもなんねえってコトくらい解れよ

トーコ 馬鹿！ どうしてそうやって……。

黒田 じゃあ俺はどうすればよかったんだよ、どうすれば？
全てが今更で、今更になって取り返しがつかない俺は、
どうすればいいんだよ。

藤澤 ……………あの。

高城 うわあっ！ びっくりした、ってか生きてたの

藤澤 さっき、高城さんと話してたんですけどね

高城 ああ、なるほどね

トーコ なに？

藤澤 このトイレ、実はそのの、掃除用具入れが男女共通になっ

てて

トーコ ああ？ つまり、両方に扉がついているって仕掛け？

千佳 （開けて）あ、マジだあ

桂木 な、なにに？！ 何故、外にいる警察隊はそこから突入してこない？

っていうかもしかして気づいていない？

高城 ばかげたような本当の話

藤澤　ここからだったら、逃げられる、そう思いませんか？

トーコ　そうね！　じゃあ、黒田君、早く

黒田　だめだ

トーコ　どうして！

黒田　どうせ、すぐにばれる……人数が減ってる

千佳　その点は心配いらなしかと思う、さっきニュースでも中には全部で5人って

トーコ　そうか！警察官に見られたときは高城さん、いなかったから

高城　いや、いたけどね、いたけどー

桂木　……。これを（制服）

黒田　お前、

桂木　僕は詐欺容疑の被疑者を追い詰めたとき、銃を奪われ、

そして、被疑者が逃げようとして僕の制服を奪われそうになった際、

抵抗し発砲するも、被疑者を取り逃がし制服まで取られる……と。

これで、貸し借りは無しでしょう、あなたのことは気に食わないし、

正直社会のゴミ以下だと思ってますよ、

そうして僕はますます出世街道から外れるでしょうね。

でも……

トーコ　あ……そうか、なるほど。それなら。

桂木　そうですね、さっきもいいましたけど、交番勤務結構天職なんですよ

黒田　それすら、続けられるか危ういんじゃないか

桂木　どの道です。どのみち、どうなるうが……。

僕は、後味のよいほうを選びたいのよね？

トーコ　黒田君。

黒田　……前言撤回だ

桂木　何？

黒田 意外と、やれば出来るんだな

桂木 いいええ。僕はトーコさんを悲しませたくないだけです
黒田 だから、お前の思っているような関係じゃねえよ。

高城 うーん、なんか外がなにやら騒がしい気がするんだけど。
めっちゃライトとか。ライトとかまぶしいし

千佳 急いで！

トーコ 立てる？

黒田 ああ……。

トーコ あたしも、また住むとこ変わっちゃうけどさ、また会える
かしらね

黒田 ああ？ ああ。まあ、その時はまたカレー作ってくれ

桂木 カレー？

黒田 なぜか玉葱がシャリシャリしてるんだ、おかしいだろ、

玉葱って先に入れるのが基本なのに……。

でもなんかそこが妙に手作りっぽくて。

俺は、まあこんな人間だし金持ちの女を騙して縋って生
きているような

禄でもない男だからさ。

それまでの女達つてのは大抵が高級料理店とか、

ホテルだとかの豪華な食事で、まあ、それも悪くは無い

んだけど。

そうだな、それでもだよ。玉葱がシャリシャリしてたけ
ど、

あの時のコイツのカレーは美味かったんだよ。

何となく、母親の味つてのはこういうものなのかもしれ
ないって、

思つて、思つて。

トーコ 恥ずかしいことばらさないで！（殴る）

千佳 ああ！怪我人になって事を！

トーコ あたしは心、怪我したー！

千佳 トーコさんの怪我なんて舐めときゃ治ります

トーコ ああ?!

千佳 ああ?

黒田 千佳ちゃん?

千佳 あ、はい?

黒田 ありがとうございます

千佳 え…… いいんですよ!

袖擦りあうも他生の縁っていうかあ、困ったときはお互い様ってやつですよ

黒田 あ、正しい日本語だ。

桂木 つ、次、もし僕がまだ警察官やってて、お前を捕まえて逮捕して尋問する暁には諺攻めにしてやるからな!

黒田 楽しみにしておくよ!

トーコ 急いで!

黒田 はいはい。

黒田、掃除用具入れから退場。

花道にクリステル現れる。

入口からはサーチライト、音楽高まる。

人々、右往左往、各々手に手に武器（モップ等）を持ったり

偽川 中継です、こちら中継の滝川です、

先ほど、銃声らしき発砲音が聞こえました!

こちら、現場です、繰り返し、先ほど銃声らしき発砲音がしました!

現場には緊張が走っています!

高城 （外の様子を覗いている）あ、なんか映画とかで見たこと

あるシーンみたいだ

千佳 本当だ、本当にもう

トーコ これまでか

桂木 トーコさん、あなたも

トーコ あたしは、いいの

千佳 でも、あ、なんでだろう、私、さっきまでココから、

出たくて仕方なかったはずなのに

偽川 こちらからは詳細は分かりませんが機動隊に動きが見られるようです！

千佳 なのに、何故だろう、この感覚、嫌だ、私、このまま終わりにするのは嫌なの

偽川 今、只今午後九時を回った所でしようか、たった今、何か指示が飛んでいるようです。

高城 僕は面白おかしい方が何でもいいと思っているから、このまま無残に霧散するのは面白くないと思う。

トーコ え？

偽川 この一段と底冷えする冬の空の下、

高まった緊張感は凍りつき、そして溶解するように

千佳 トーコさん、私は、私は何故こうなったのか分からないけど、

でも、私たちこうなったのは、何か、きつとなにか理由があるんですよ。

私、上手くいえないけどこのままなんて嫌、嫌、絶対なんでだろうなげか、悔しいの

偽川 視聴者の皆様に伝わりますでしょうか、何でしょうか、これは…

桂木 僕も、このまま何も出来ないまま、何も出来ないまま、突入されて

終わりになんて、ごめんですよ、一応僕だって、一枚噛んだ人間なんだそれなのに、制服組だとかそんな問題で、

僕だけ違う対応がなされるのだろうけれど、でもその前に僕は僕だ、桂木智久という一人の人間として、

ここにこうしているというのは僕の意味ではないのでしようか、
トーコさん、僕は分からない。

偽川 私たちにはまだ理由も何も分からない状態ですが、先ほどの銃声が突入を早めたように思います、あ、雪です、今、ちらほらと雪が降ってきました

トーコ あたしだって分からない。何故と問う前に、どうしてと思いをめぐらす前に
もっとやるべきこと、やっておくべきことがあったはずなのに。

それすらもわかっていないの、私たちは、
けれどこうして今、こんな時にきつとこの奇妙な出会いと時間を、

もつとなにかしなきゃいけないことがあるんだわ。
私、私だって何でだろう、確かに私、捕まって実家に連れ帰られるのは

嫌だけど、でも、私それだけじゃなくて悔しい！

偽川 中にいる被害者の方々の安否が気遣われます、こちら現場は雪です。

高城 なぜ、あの時僕はクラスメイトを殴っておかなかったのだらう？

今の気持ちはそんなぼんやりとした後悔に似ている。

殴るチャンスはいくらでもあったはずだ、教室の隅で、

右側通行の廊下のすれ違い様、放課後の校庭、でも僕は殴らなかった、

誰も殴ってこなかった。何故だらう何故なんだらう。

不満ではないが漠然とした後悔で。

殴っていたら何か変わったわけでもないのに、なぜ、僕はスルーした？

無視した？ 足りない、不足だ、心にあいたばかりとした穴。

偽川 ここは公衆の場です、それを占拠することは断じて許されない事です。

千佳 それに！逃げた黒田さんを遠くに行かせる為にも、なんでもいいんです、

こうなったら、っ徹底的に応戦しましょうよ！ みんなでやれば、きつと

桂木 それは、危ないです、僕が言うのはなんですけど相手はプロですよ？

それに応戦なんかしてみてください。公務執行妨害で逮捕されますよ

高城 物足りないんだ手持ち無沙汰なんだ。何でもいいんだ。

偽川　しかし、公衆とはアジール、本来は不可侵で、自由の場所であつたはずです。

トーコ　あなたたち…　あなた達は黙っていれば被害者で

通つたものをどうしてこうもややこしくするかしら？

藤澤　そんなの……

千佳　何よ

藤澤　抵抗したって無駄だ

千佳　あんたつてそうよね、なんで？

藤澤　は？相手はプロですよ、言うなれば。

そんな相手にモップ一本でどうするつもりですか

千佳　それは

藤澤　別に、皆さんがそうしたければお好きなように、僕はかまいませんが

高城　藤澤君

藤澤　そんなの、ただの悪あがきだ

偽川　犯人の意図は分かりかねますが、

何かを訴えているようなこの立てこもり事件を

皆様はどうお考えになりますでしょうか私には……

トーコ　ね、藤澤君。どうするかじゃない、どうしたいかでしょう、わかってるんでしょう。

あんたが、本当にあんたがどうしたいのかは、あんた自身で決めること。

さあ、私達は決まっている、いいえ決めてきた、でも、ココまで来て、

何も決断を下さないなんて逃げだ、卑怯だ。

高城　見て聞いて知っているくせに、気づいているくせに他人事。

冷たいけれど、生き方としてそれは正しいんじゃないかな？

自己防衛策、としてはある意味一番。

トーコ そうかもしれないけれど、そうやって、流されて、そうやって、

周りのせいにして生きるのは簡単だけれど、こんな時位、どうしたいのか、何がしたいのか、どうするのか。

そうしないと、後悔ばかり。後悔ばかりだよ、一度しかないんだもの、

人生は、一度しかないんだから。だから最後はあんたが決めなさい、

あんたが、どう、するのかを。

藤澤 ……僕は。

偽川 私には、これは、なにか社会への悪あがきのような、そんな思いを汲み取る事ができるのです。

公衆の場を、不可侵で自由の場を汚しているのは、彼らなのでしょうか、社会なのでしょうか。

高城 ヤバイよ、外の動きがまた変わった

藤沢、入口から今にも飛び出さんとする人々にはっとして振り返り言う

藤澤 ちょっと、あの、聞いて下さい……何か、足りないと思いませんか

千佳 関わりたくないなら黙っててよ！ 悪あがき、結構じゃない、あたしは

藤澤 聞いて下さい！ 武器を持って何をしたって無駄だ、それは真実だ、

それならば…今、足りていない事をすればいい

千佳 足りていない？

藤澤 不本意だがこれは立てこもりだ、

世間からはすくなくともきつとそういつ目で見られているけれど、

何も、ただ、事象が引き起こしたいうなれば受身の立てこもりだ、

でもそれだけじゃあ、ひきこもりにも劣る。

桂木 そうか、声明か

千佳 声明？

トーコ 理由が無いのよ、私達の行動には理由が、

つまり、今までは架空の犯人がいて被害者として見られていた

私たちが声明を出す事によって攪乱できるってことね

藤澤 そこまで考えていたわけじゃあないですが、結果としてそうなるならば、

それが一番、ベストでなくてもベターではあると思いま

せんか。

千佳 黒田さんのためにも？

藤澤 そう

桂木 きつと僕たちが声明を出したその直後、突入してくると思っければ？

藤澤 どの道なんでしょう？ならばきっかけはこちらから与えたっていい。僕は

高城 後悔したくないんでしょ？

藤澤 ……僕は、もう、幕を引く。中途半端で自分に酔って、でもそんな自信なくて、

新しい場所に踏み込むのが怖くて、今の現状が心地よく

て、

ずっと、変わらないでいられば良いと思って、そうして周りを理由にして、

大人を恨んで、流されて、でも流されたくなくて、
だけでもがく事すらしてこなかった、そんな自分に、そんな自分に。

だから、もう幕を引く！

偽川 あ、今また動きがあったようです、

この位置からではカメラには映っておりませんでしょう

が、

立てこもり犯に何か動きがあったようです、いったい何

が…

トーコ いいのね

藤澤 責められたっていい、貶されたっていい。

自分で決めたことだから、後悔はないです。

だから……本当に……ごめんなさい……ごめんなさい、

ごめんなさい。

千佳 それが、決断？

藤澤 そうですよ、僕の、僕なりの、決断です

高城 僕も、それはいい考えだと思っよ、

ってかそっちの方が燃える、面白い！

桂木 それならば、怪我人も出ないし、

トーコ まあね、それくらいならば……お叱りは受けると思っけど……

藤澤 もう、覚悟を決めたんですよ！

トーコ そこまでいうなら、仕方が無い、この寛和木トーコ、

あんたたちの為に一肌脱いでやるわよ！

高城 うん？

藤澤 それじゃあ

偽川 たった今、警官隊から情報が開示されました、
犯人が声明を出す模様です、それに乗じて突入……
え、そんなそれじゃあおもし……

千佳 はつきりいつて、あたしは、それでも逃げだと思っけど、
でもそれで、はじめがつかくならば……
あんたがきちんと考えて決めたことならば、
のってやるうじゃないの！ あんたなりの悪あがきに。

藤澤 千佳さん！

偽川 声明です、犯行声明が、出るようです！！

トーコ それじゃあ、じゃあ、もう時間が無い、行くよ！

藤澤 聞け！資本主義にたかる蛆虫共め！

高城 社会の屑とはよく言っただもんだな、

桂木 ゴミ屑、腐ったみかんが、

藤澤 貴様らの期待にこたえてやるんだ、

トーコ 聞け！国家権力に飼われた歯牙なき犬共め！

桂木 交番勤務で巡回中に

千佳 酔っ払いに絡まれるよりマシだろう、

トーコ 貴様らの期待にこたえてやるんだ、

高城 聞け！マスメディアに翻弄される哀れな聴衆よ！

藤澤 センセーショナルかつ大胆に！

千佳 面白おかしく盛り上げてやるうての。

高城 貴様らの期待にこたえてやるんだ、

トーコ そうだ私達は、ただ期待にこたえているだけだ、

桂木　こたえているだけなんだ。

藤澤　これは純粋なレスポンスだ、

千佳　聞いている？

高城　その為の声明だ、

桂木　その為の立て籠もりだ、

トーコ　馬鹿にするなよ、

高城　チャチにするなよ、

トーコ　お涙なんて御免だね。

藤澤　耳の穴かっぽじってよく聞けよ！

僕達は幕を引く

このばかげた茶番に幕を引く

これはけじめだ、ちよつとした裏切りだ！

けれどきつと、此の時を

後悔して過ごさぬように

聞こえているなら言つてやる、そうだ

これは、最後の悪あがきだ！

声　突入　　！！

同時に警察隊の突入、出来れば幕を引きたいが無理だろう…同時
暗転。

エピソードと後書き

エピソード

暗転から溶明

藤澤、花道に現れる。

スーツの上着を片腕に引っかけ、携帯電話で誰かと話している。

ナレーション
藤澤

あれから、ほどなくしてぼくは内定が決まった。

春になって、いやもう初夏というべき季節になるのだろう

か、

スーツで汗ばむような日差しのなかで、僕は営業に駆けずり回っている。

変わらない日常、同じ仕事、繰り返しの毎日だけれど、

妙に清々しいのはきつと、けじめを付けたから。

あの経験が、ずっと昔のような気がするけれど、

ほんの二ヶ月前の事で、警察に調書を取られ嚴重注意を受けた僕たち

……いや、桂木という巡査はめっぼうしかられていたかな、黒田さん逃がしちゃった事を知られた後はなおさらで。

あ、そうそう、あとで知ったことだけあのトーコさんという

女性が実は元警察庁長官のお孫さんだとか言う事で、

僕達も嚴重注意で済んだらしい……びっくりだ！

早く言ってくれればいいものを……まあ、そんな事はどうでもいいか。

皆、今はどこで何をしているのか、分からないけれど……僕は写真の道は諦めたけど、今でも小さなデジカメを持ち歩いている。

営業の合間に、たまに思うがままにレンズを向けて……。

藤澤のレンズの先に千佳。MEイン、見つめ合う二人、照明、Sから

バックサス（ホワイトアウト気味の）、空を見上げ……暗転。
溶明すると、そこにみんないる。
カーテンコール。

以上終幕

後書き

どうもはじめまして？ モトです。

この作品は2004年の2月末に卒業公演として上演した物です。基本的に自分自身が脚本演出する際には殆ど説明書きを書かない為、

多分に分かりにくい点があるかと思えます。

書きたそうとも思ったのですが、この芝居自体動きが激しい（特にクライマックスは動きっぱなし）の為書き込む事を断念。すみません。

PCの中のデータだけではクラッシュしたときに……！！！！となる為、（というかなりかけたため）今後はぼちぼち古いものもUPできたらと思っています。

このサイトが台本形式のUPに向いていないのはわかってるんですがね。

え？ そんなことよりイステイナ書け？

うん、はい、スミマセン。。。

楽しんでいただければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6286s/>

W.C. ウォータークローゼット

2011年10月5日19時54分発行